

## 第2回

# 全国失語症会話パートナーのつどい

# 報告集



主催 NPO 法人言語障害者の社会参加を支援するパートナーの会 和音  
独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

## 「第2回全国失語症会話パートナーのつどい ～新たな連携と活動の展開を目指して～」を開催して

失語症会話パートナーは、失語症の人の心により添い、会話支援技術を持ってその意思の疎通を支援する人です。情報を伝えるだけでなく、人と人とのコミュニケーションを仲立ちし、失語症の人の思いを聞き、尊重しながら共に歩もうとする人です。今年度の全国失語症友の会連合会(現日本失語症協議会)全国大会でも「もっと会話パートナーを増やして」という当事者の声が聞かれました。また平成25年に施行された障害者総合支援法の関連でも、失語症など意思疎通が困難な人に対する支援事業の実施が全国の市区町村に周知されたとのことでした。

今年度は、和音の前身団体が失語症会話パートナーの養成を始めてから15年、NPO法人として再出発してから10年目を迎えました。2009年に開催した「第1回全国失語症会話パートナーのつどい」からも5年が経過し、この間新たに埼玉県、群馬県、熊本県、沖縄県などでも言語聴覚士会やNPOが主催する会話パートナーの養成が始まっており、都内では豊島区、世田谷区、武蔵野市、千葉県では我孫子市に続き市川市でも行政が養成を始めています。さらに他地域からも和音への問い合わせや講演依頼が相次ぎ、失語症者へのコミュニケーション支援の必要性和会話パートナーの存在が徐々に浸透してきているのを実感しています。

この節目の年にさらなる活動の展開を目指し、また会話パートナー同士の連携を深めたいと考え、全国の会話パートナーが一堂に会する「第2回全国失語症会話パートナーのつどい」を呼びかけました。当日は79名もの参加を得ました。当日不参加の団体からも資料をいただき、多くの地域の会話パートナーの活動の様子を共有することができました。

大会の最後に「新たな連携」として和音から一つの提案を行いました。それは全国の会話パートナーが任意で参加し、意見交換や情報交換をするためのメーリングリストを立ち上げることです。メーリングリストを第一歩として、全国の会話パートナー同士が横のつながりを持つことにより、お互い切磋琢磨して失語症当事者のニーズに応えられる力を養い、社会情勢の中で求められている役割を再確認できると期待しています。また社会や行政に対しても、失語症者の支援者として会話パートナーが必要であること、全国で会話パートナーが養成され、活動が広がりをみせていること、さらには互いに連携して失語症者を支援し続けようとしていることなどをアピールできると考えます。

本つどい開催に当たり、助成いただいた独立行政法人福祉医療機構を始めとして、個々人や諸団体の様々なご協力に対して改めて深謝すると共に、参集された皆様からいただいたエネルギーと熱い思いを心に刻み、今後も失語症者の社会参加を支援する活動に邁進する所存です。

2015年2月吉日

NPO法人言語障害者の社会参加を支援するパートナーの会 和音  
代表理事 田村洋子

# 目次

I プログラム .....	3
II 団体紹介 .....	4
III グループディスカッション .....	20
IV ワークショップ .....	24
V パネルディスカッション .....	29
VI 参加者の感想 .....	42
VII 参加者アンケート結果 .....	44
VIII 連携への提案(全国失語症会話パートナーメーリングリスト)....	49
IX 提言 .....	50

## <資料> NPO 法人和音の失語症会話パートナー養成講座について

1. 失語症会話パートナー養成のあゆみ.....	51
2. 失語症会話パートナー養成講座 修了者アンケート結果 ...	54

# I プログラム

【午前】10:00～10:10 主催者挨拶(NPO 法人和音代表 田村洋子)

10:10～11:00 参加団体の紹介(各団体2～3分)

11:10～12:10 グループディスカッション  
小グループに分かれ、活動の紹介やアイデアの交換

[ 昼食(お弁当) ]

【午後】13:00～13:45 ワークショップ『コミュニケーション支援の工夫』

① スマートフォンやタブレットを使って

講師:石橋 孝高

② 簡単イラスト講座

講師:泉 雅史

\*①②のどちらかを選択

13:55～15:20 パネルディスカッション『活動の広がりをめざして』

<パネリスト>

① 会話パートナー同士のつながり

NPO 法人「あなたの声」

② 会話パートナーの啓発

川合英子(世パネット)

③ 四日市市の派遣事業制度

堀本一浩

④ 在宅訪問について

田村洋子(NPO 法人和音)

<座長>

NPO 法人和音 副代表 小林久子

質疑応答、全体討議

15:20～15:30 全体のまとめ

## II 団体紹介

失語症会話パートナー養成「あんど」(福岡県福岡市・北九州市).....	5
くまもと失語症会話パートナー講座(熊本県).....	6
高知県言語聴覚士会地域福祉部 会話パートナー養成講座(高知県).....	7
四日市会話パートナーの会(三重県四日市市).....	8
あなたの声(愛知県名古屋市).....	9
失語症会話パートナーの会[港](神奈川県横浜市).....	10
失語症会話パートナー世田谷連絡会「世パネット」(東京都世田谷区).....	11
板橋失語症会話パートナー「笑顔」(東京都板橋区).....	12
むさしの会話パートナーズの会(東京都武蔵野市).....	14
多摩失語症友の会「こだま」(東京都多摩市).....	15
我孫子市(千葉県我孫子市).....	16
市川市役所・言語デイサービス ミカタ市川(千葉県市川市).....	17
埼玉県言語聴覚士会(埼玉県川越市・さいたま市).....	18
NPO 宙(群馬県前橋市).....	18
NPO 法人和音(東京都豊島区).....	19

## 失語症会話パートナー養成「あんど」

所在地	福岡県（福岡市／北九州市）	団体設立年	2003年9月1日
会員数	19名	現在活動中の会話パートナー数	39名
主な活動先と支援内容	<p>①失語症友の会（例会・交流会）失語症サロン。</p> <p>&lt;支援内容&gt; 会場設営、進行援助、板書、ゲームやテーマトークのリード、会話交流の援助、会報作成・送付など</p> <p>②あんどSTの居る施設のグループプリハビリ</p> <p>&lt;支援内容&gt; 会話交流の援助</p>		
団体の活動	<div style="border: 2px solid blue; padding: 10px; text-align: center;"> <p><b>失語症会話パートナー養成「あんど」の体制</b></p> </div> <p>「あんど」としては①失語症会話パートナーの養成と活動支援、②失語症者への支援、③ご家族、関係者への支援を行っている。</p> <p>①養成講座を概ね毎年開催。養成後はともに活動し、勉強会、情報交換、書籍の紹介の時間を設けて学ぶ機会を維持し、交流会・サロンの準備をともにして終了後は感想を話し合うなど協力体制を整えるようにしている。</p> <p>②友の会など直接お目にかかる方以外の失語症者に対しては、失語症支援カード・リーフレットの配付（送付）を開始。HPからのダウンロードも可能。</p> <p>③ご家族、関係者に対しても、②の支援カードリーフレット配付を行っている。また、3時間程度の研修講座を、ご家族対象、支援者対象などで開催。ボランティア団体からの依頼で研修会講師を務める機会も頂いた。</p>		
課題	<p>○支援活動についての課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の場が限定されていること。</li> <li>・マンパワーの維持（拡大）が難しい。</li> </ul> <p>個別の事情で継続が難しい場合がどうしても出てくる（避けられないことだと思うが）。</p> <p>STも勤務体制の変更など（日曜勤務など）で、時間を合わせにくくなっている。</p> <p>○会話パートナーの会（団体）についての課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の継続には、会話パートナーとして学び達成感を得ること、仲間とともに活動すること、会話パートナーそれぞれの個性を大切にすること、個人の事情を尊重して無理なく参加すること、などが大切と考えている。</li> <li>・そのため、会話パートナーとSTが、活動時の経験や感想・疑問を聞き合う（共有する）場を持つようにし、休んだ時の情報は会報やメールで送る体制を整えるよう努めている。（……が、いずれも簡単ではありません）</li> </ul>		
その他	<p>他団体に聞きたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営資金確保の工夫（助成金申請のほかに）</li> <li>・（経験豊かな）パートナーさんが活動時に携帯・準備している「もの／道具」の「リスト」</li> </ul> <p>優先順位や相手の方で何か工夫していることがあれば……。</p> <p>例えば、最低限バージョン ～ 最大限バージョン 重度の方用バージョン ～ 軽度の方用バージョンなど</p>		

現在の活動

①個別の要望への対応	
②公的な会議や説明会などでの要約筆記	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉機器展講演会で、参加者に対しての板書（要約筆記）。</li> <li>・月1回の失語症者交流事業で、参加者全体に対しての板書（要約筆記）。</li> </ul>
③居場所作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡で会話サロンを始めた。</li> </ul>
④見守り的な支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例会の往復で偶然会ったら、声をかけて一緒に来ている。</li> </ul>
⑤緊急時の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失語症支援カードを作成し配付しています。</li> <li>※キャッシュカードサイズの携帯用カード。失語症の方とのやりとりの基本が記載され、緊急時連絡先などの記入欄がある。</li> </ul>
⑥その他	<p>会話パートナーさんがそれぞれに考えているものとして</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・失語症の方の居場所作り 今の月1回の例会よりも頻度多く行ける場が出来れば。</li> <li>・失語症の方々の他地区交流を兼ねた旅行企画</li> <li>・デイサービスや、個人から、病院からでも要望があれば会話パートナーとして活動したいが、その窓口をどのように作っていくべきか考えている。</li> <li>・会話パートナーの住んでいる地域で活動したり、周りの人へも活動を勧めたいが、自分たちだけでは難しさを感じている。</li> </ul>

くまもと失語症会話パートナー講座

所在地	熊本県熊本市	団体設立年	2008年
会員数	13名	現在活動中の会話パートナー数	4名
主な活動先と支援内容	熊本県言語聴覚士会が開催する、複数の失語症友の会が参加するイベント（今年度は失語症者運動会）に対して、前年度、前々年度に失語症会話パートナー養成講座を受講された方からボランティアを募っている。		
団体の活動	年に1回、熊本県立大学にて失語症会話パートナーを養成する講座を行っている。その他、希望に応じて施設出張形式の講座を行っている。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○支援活動についての課題 活動先が広がらない。</li> <li>○会話パートナーの会（団体）についての課題 発足時が若手中心のメンバーであったため、ライフスタイルの変化に伴い、やむを得ず活動への参加が難しくなるケースが多い。</li> </ul>		
その他	○他団体に聞いてみたいこと 病院や施設に勤務しているSTのみで活動している団体の運営の工夫について		

## 高知県言語聴覚士会地域福祉部 会話パートナー養成講座

所在地	高知県高知市	団体設立年	2006年
会員数	受講生 319名	現在活動中の会話パートナー数	なし
主な活動先と支援内容	失語症の方と関わりが多い人にコミュニケーションスキルを身につけてもらうことを目的に失語症会話パートナー養成講座を行っている。 実施回数は18回となった。 内容は、失語症の基礎知識から、会話のスキル、そして失語症の方に協力してもらい、実践してもらう時間をもっている。		
団体の活動	年2回 失語症会話パートナー養成講座を開催している。		
課題	○支援活動についての課題 講習会のみ行っているため、会話パートナーのその後のフォローが出来ていない。  ○会話パートナーの会（団体）についての課題 会話パートナーの会がない。		
その他	現在、当会では会話パートナー養成講座に関わっているSTは約30名いるが、講師役を務められる人材が少ない。そんな中、今後、実践的な講座をつくっている予定だが、会の中で講師たちの勉強会は行っているのか、また、講師の育成方法を教えて欲しい。また、当会では行っていないが、どのようにして会話パートナーの活動の場を作っているのか教えて欲しい。		

### 現在の活動

①個別の要望への対応	県社会福祉協議会の施設を借りて、月1度失語症及びコミュニケーション障害についての相談を行っている。 (当初月2回、2011年5月開設)
③居場所作り	上記①の施設で月1回「ピアサロン」を開き、誰でも自由に集まって談話できる場所作りをしている
⑥その他	障害者支援施設に「リラクゼーションのための和みのヨガ」ボランティアグループと一緒に行動し、失語症や他の言語障害の人を担当し会話をしている。 (月1回)

## 四日市会話パートナーの会

所在地	三重県四日市市	団体設立年	2004年
会員数	37名	現在活動中の会話パートナー数	30名
主な活動先と支援内容	<p>①失語症友の会の例会で、交流会の支援          (グループトークの際のサポート、ゲームのサポート板書、社会見学の際のサポート、スポーツレクリエーションのサポート)</p> <p>②会議の際のサポート (内容のまとめ、重要事項のメモ作成、発言のサポート)</p> <p>③障害者福祉センターの例会の交流会の支援 (1対1の会話を楽しむ役割)</p>		
団体の活動	年2回、スキルアップ講座に出席		
課題	<p>○支援活動についての課題          職業を持っている方が多く、派遣人数が集まりにくい</p> <p>○会話パートナーの会(団体)についての課題          活動が一部の人に偏りがち。          パートナー同士の交わりがない。</p>		
その他	○プログラムへの希望 勉強のため、記録をまとめて下さい。		

### 現在の活動

①個別の要望への対応	(手紙書く、買い物同行、病院に同行、市役所に同行に行くなどを考え中)
②公的な会議や説明会などでの要約筆記	会議、説明会は要約筆記を実施している。
③居場所作り	月1回、交流会を実施している(パートナーと失語症者)。
⑥その他	個人派遣ができるようになれば良いと思う。

## NPO 法人 あなたの声

所在地	愛知県名古屋市	団体設立年	2007年5月
会員数		現在活動中の 会話パートナー数	68名
主な活動先と 支援内容	<p>主な活動先：失語症友の会(8団体)及び施設や他団体(5団体) 合わせて15箇所</p> <p>支援内容は様々であり、会や団体の事業、行事に合わせてコミュニケーション活動を中心に支援活動を行っている。</p> <p>失語症友の会の例会での</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お話し相手</li> <li>・外出時の介助</li> <li>・企画立案のサポート</li> <li>・通所リハビリやディサービス等のSTの補助</li> <li>・障害者団体の行事の手伝い</li> <li>・時々、個人支援</li> </ul>		
団体の活動	<p>会話パートナー限定の養成講座開催の共催 友の会連合会の行事の(失語症間の交流会や総会)サポートと企画</p>		
課題	<p>○支援活動についての課題 外出時(バス旅行、公共機関利用)介助が必要となるケースが出てくる場合の対応の仕方。車椅子、トイレ、食事や体位移動など。また、途中や行き先のバリアフリー、スロープ等の事前調査が必要。 現在支援している当事者がどんどん高齢化し、外出を控えたり介助部分が増えてくる。お出掛け企画が多いとパートナーとして寄り添うのにも費用がかさむ。</p> <p>○会話パートナーの会(団体)についての課題 会員の定着、普及に苦労している。また、一般市民への理解と認識を深めるためのPR活動の方法について苦慮。会員の所在地ならびに活動地域は愛知県全域であるため、移動時間と費用がかかる。 提案・召集に仕掛けが必要。</p>		

### 現在の活動

①個別の要望への対応	<p>①パソコン操作の支援活動を2名に対して行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. エクセルの表計算について週1回で約5ヶ月。</li> <li>2. ワードについて週1回で約5ヶ月。</li> </ol> <p>②個展開催の支援・・・出展品の搬入搬出、展示、見学者の受付。</p>
③居場所作り	<p>①STが立ち上げたサロンへの支援参加</p> <p>②STの紹介で施設、団体へ出向いての支援活動</p> <p>③失語症者の方が個展を開かれる場合、出展品の搬入、受付などの手伝い</p>
④見守り的な支援	<p>①会話パートナーに携わるようになってから身障者に対する考え方が変わった。</p> <p>②今まで身障者に出会うと目をそらしていたが、現在は手を差し伸べるようにしている。</p> <p>③バス停などで身障者の方を見かけたら優先するようにしている。</p> <p>④街を散歩してスロープ、バリアフリー、公園のトイレなど身障者に不安全感を感じる。</p>

## 失語症会話パートナーの会[港]

所在地	神奈川県横浜市保土ヶ谷区	団体設立年	2006年
会員数	45名	現在活動中の会話パートナー数	33名
主な活動先と支援内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ [港]主催のサロンでの会話支援</li> <li>・ 各区中途障害者活動センターでの会話支援と活動支援</li> <li>・ 各区リハビリ教室での会話支援</li> <li>・ 当事者団体での会話支援</li> <li>・ [港]事務局での活動</li> <li>・ 老人保健施設へ訪問して個別の話し相手</li> <li>・ 個人宅訪問</li> </ul>		
団体の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会話サロン3ヶ所の開催（各月1～2回）</li> <li>・ 会員向けの会報を年2回発行</li> <li>・ 年1回、失語症会話パートナー養成講座修了者向けフォローアップ講座の開催（横浜失語症会話パートナーを養成する会と共催）</li> <li>・ 年1回、公開講座の開催（会員外の参加も可）</li> <li>・ 年1回、横浜失語症会話パートナーを養成する会との合同会議の開催</li> <li>・ その他、イベント出席や依頼された支援（単発）への随時対応</li> </ul>		
課題	<p>○会話パートナーの会（団体）についての課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別に活動しているパートナーは多いが、講座に出てくる人は一部の決まった人のみ</li> <li>・ 事務局の世話人の固定化</li> </ul>		

### 現在の活動

③居場所作り

会話サロン 3ヶ所の運営

## 失語症会話パートナー世田谷連絡会「世パネット」

所在地	東京都世田谷区	団体設立年	2007年
会員数	60名	現在活動中の会話パートナー数	40名
主な活動先と支援内容	世田谷区内の失語症者の自主グループ、及びSTが担当している失語症グループなどで活動。 グループ会話での当事者間の橋渡し、会話サポート。 自主グループでは運営にも関わり、例会の計画も立てる。		
団体の活動	世田谷区内で活動する会話パートナーの結集を目的として設立。年に2回例会を開催し、会話パートナー同士の情報交換や交流、スキルアップのための研鑽を行なって、必要な時、必要な場で会話パートナーとして協力し合える関係をつくり、失語症の方の社会参加のお手伝いすることを旨とする。 また、「みんなで読む失語症回覧板」を不定期に発行。自主グループで活動している失語症会話パートナーに当事者さんとの会話のネタを提供するとともに、失語症や会話パートナーに関する情報を広く普及する。 当会では失語症者への日常的な支援活動は団体としては行っておらず、また会話パートナーの養成、指導、派遣などには携わっていない。失語症会話パートナーの養成は区が2005年から行っている事業。なお、障害者総合支援法の施行に伴い、失語症者に対する意思疎通支援事業の具体的展開に関して、行政当局や区議などからの会話パートナー活動の実態調査や支援に関する具体的な提言を求められた時の世田谷区における窓口となっている。		
課題	○支援活動についての課題 自主グループの活動に参加して支援している会話パートナーから、活動に必要な部屋の確保が難しいという声がある。区民センターや地区会館など公共施設の部屋を借りる際、抽選に外れると、いつもと同じ施設・同じ曜日で活動できなかつたりする。部屋の確保に苦労している。  ○会話パートナーの会（団体）についての課題 世田谷区が養成する会話パートナーは毎年10人前後であり、多くは当会に入会していただいているが、例会に出席するメンバーが増えない。失語症の方の社会参加のお手伝いのできる団体として、一層の連携を目指したい。		
その他	○他団体に聞きたいこと 会話パートナー同士が「集う」喜びを、どのように見出したり生み出したりしているのか？		

### 現在の活動

①個別の要望への対応	講演会等で登壇、発言する失語症者のサポート
②公的な会議や説明会などでの要約筆記	高次脳機能障害連絡協議会の総会で個別支援として要約筆記
⑤緊急時の支援	東日本大震災当時の事例

## 板橋失語症会話パートナー「笑顔」

所在地	東京都板橋区	団体設立年	2002年
会員数	63名	現在活動中の 会話パートナー数	54名
主な活動先と 支援内容	<p>○自主グループ6ヶ所 『撫子』料理の買出しから調理・会食を目的とする女性グループの会。 ⇒買出し、調理の見守り、会計、計画の手伝い 『ステッキーズ』主に公共交通機関を使用した外出が目的のグループ。 ⇒計画の手伝い、目的地への下見、外出時の動向 『サロン朝顔』板橋区社会福祉協議会の「福祉の森サロン」として活動。 『サロン青空』ゆっくり茶菓を取りながら会話を楽しむ会。 『おしゃべりの会』失語症の方で復職希望、職場復帰をなさった方の会。 『虹の会』失語症の方とその家族の方が立ち上げた友の会。 ⇒例会の計画やその進行の手伝い</p> <p>○ST 指導施設2ヶ所 『板橋区障がい者福祉センター』グループ訓練の補助。訓練前後の会話。 『みずべの苑』板書、会話の補助。</p> <p>○その他、ディサービス施設、工事脳機能障がい者のグループ補助。</p>		
団体の活動	<p>○年1回総会。「笑顔」1年間の活動報告。 ○年2回ステップアップセミナーを開催。板橋区の助成を得て、養成講座担当STによる勉強会。同時に定例会。（福祉センターが予算をたてて） ○養成講座受講生に対する活動 ・会話パートナー養成講座1対1会話実習でのAPさんのアテンド。 ・会話パートナー養成講座内、終了時の活動先紹介。</p>		
課題	<p>○支援活動についての課題 ・自主グループの利用者は自力参加が基本。体調をくずし足が遠のくが、現状送迎についてはお手伝いできない。</p> <p>○会話パートナーの会（団体）についての課題 ・ご家庭、ご本人の事情もあり、休会者の活動復帰が見込めない。 ・同じ理由でスキルアップのチャンス、定例会、総会等、出席者の顔ぶれが決まってしまう。 ・役員制の会から自主グループ持ち回りの事務局制への初年度。こちらについての課題はこれから。</p>		

現在の活動

<p>①個別の要望への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めての会話サロンへ参加時の同行。サロン最寄り駅から目的地まで。</li> <li>・失語症者ご家族との携帯等での連絡。「今家を出た⇔会に着いた」の安全確認。</li> <li>・会話パートナーではないが、自主グループのボランティアが車で送迎することがある。</li> </ul>
<p>③居場所作り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2010年6月、福祉の森サロン2ヶ所目となる「青空」を立ち上げ。区内を通る電車2路線両方にサロンを置けたことで、失語症の方の交通の利便が上がった。</li> <li>・各自主グループやST指導施設で他のグループの内容をお知らせし、お誘いをしている。失語症参加者のお顔ぶれは重複しますが、色々な会に参加することで、外出やおしゃべりすることの機会向上に繋がっていると思う。</li> </ul>
<p>④見守り的な支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お見かけした際は、当然ご挨拶や日常会話となります。</li> <li>・失語症の方が通うデイサービスに立ち寄り。手工芸品の購入も。</li> </ul>
<p>⑤緊急時の支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会としては具体的にはなし。</li> <li>・個々のグループでは 板橋区障がい者福祉課の「ヘルプカード」や N T Tの「お助け手帳」など、失語症の方に紹介、配布。</li> </ul>
<p>⑥その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話パートナーとしての活動から、更に高次脳機能障害・難病・認知症等の方に対してもボランティアで活躍する方がいる。どなたに対しても向き合う気持ち、姿勢は同じ。</li> <li>・行政主催の失語症セミナーで、会話パートナーと、その活動内容発表の場を持った(6月24日開催)。今後も機会があれば参画し「失語症会話パートナー」をより多くの方々に知っていただきたい。</li> </ul>

## むさしの会話パートナーズの会

所在地	東京都武蔵野市	団体設立年	2008年3月1日
会員数	43名	現在活動中の会話パートナー数	34名
主な活動先と支援内容	<p>市の事業として2ヵ所、自主グループとして3ヶ所で会話の手伝いを行っている。</p> <p>市の事業 ①山桃の会（毎週水曜日） ②秋桜の会（第1, 3土曜日）</p> <p>自主グループ ①すみれの会（第1, 3木曜日） ②花みずきの会（第3月曜日） ③桜の会（年4回）</p> <p>失語症会話パートナー養成講座の補助スタッフとして参加</p>		
団体の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の方へ失語症を知ってもらうためのリーフレットを作成、配布</li> <li>・市の市民社協などと共に市民向けの講座を実施</li> <li>・スキルアップ講座をSTを迎えて実施、その後、交流を図るために食事会を行う</li> </ul>		
課題	<p>○支援活動についての課題 養成講座が毎年行われパートナーの人数が増えているが、活動できる場所が少ない。</p> <p>○会話パートナーの会（団体）についての課題 人数が多くなってくるので、自由に発言でき、情報も共有できる風通しのよい会になると良いと思っている。</p>		
その他	<p>○他団体に聞いてみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅の失語症の方への支援をどうしているか</li> <li>・実際に訪問している時の注意点</li> </ul>		

### 現在の活動

③居場所作り	近い所に住んでいる方々のグループ作り お互いの家を訪問したり、食事に行ったりして欲しいと考えています。
⑤緊急時の支援	行っていないが考えてみたい。

## 多摩失語症友の会「こだま」

所在地	東京都多摩市	団体設立年	1998 年
会員数	登録 35 名(出席 20 名程度)	現在活動中の 会話パートナー数	登録 13 名 (出席 8 名程度)
主な活動先と 支援内容	こだまの会のサポート <ul style="list-style-type: none"> <li>・例会の会場設定（部屋の開閉錠を含め）、片づけ</li> <li>・例会の時の会話サポート（例会：月 1 回、会話の会：月 1 回 会話パートナー 2 名、参加者 10 名）</li> <li>・バスハイク、クリスマス会、夏祭などの行事の計画と実行</li> <li>・補助金申請、ボラ保険扱い、会報発行</li> </ul>		
団体の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年 1 回の会話パートナーフォローアップ</li> <li>・年 1 回、失語症入門講座（一般の方も参加する）</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○支援活動についての課題                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の付き添いなどの要望はなかなか出てこない</li> </ul> </li> <li>○会話パートナーの会（団体）についての課題                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、市でパートナーの養成をしていないので人数が増えない。</li> </ul> </li> </ul>		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話パートナーが意思疎通支援者として認可されたボランティアになった時のメリットやデメリットを考えて欲しい。</li> </ul>		

### 現在の活動

①個別の要望への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業所内でのトラブルの時に代弁した。</li> </ul>
③居場所作り	例会以外の会話の会（いけいけ）を会話パートナー 2 名で行っている。 会話の時間後は、昼食を一緒に食べたり、散歩に行ったりする。
④見守り的な支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らしの失語症の方に、災害時要支援者に登録してもらい、会話パートナーが支援者となった。</li> <li>・地域で失語症の方に出会ったら声をかけるようにしている。</li> </ul>
⑥その他	老健入所の会員のところへ会話の訪問に行き始めている。

## 我孫子市

<b>所在地</b>	千葉県我孫子市 (所轄課:我孫子市障害者福祉センター)	<b>団体設立年</b>	2005 年養成開始 2007 年派遣開始
<b>会員数</b>	23 名	<b>現在活動中の 会話パートナー数</b>	17 名
<b>主な活動先と 支援内容</b>	<p>我孫子市は、市の福祉サービスの事業として、申請のあった個人に対し、会話パートナーを派遣している。</p> <p>現在は、毎週 2 回、地域の公共施設に集まる失語のある人全員に対して、自由会話の話し相手として会話パートナーを派遣している。</p> <p>その他、話し相手として、個人宅への派遣（週 1 回 1 名）や、外出での会話補助として、映画や食事会（2 ヶ月に 1 回約 3 名）への派遣、失語症友の会の日帰りバス旅行への派遣（年 1 回 4～5 名）を行っている。</p>		
<b>団体の活動</b>	<p>以前は会話パートナーが設立した団体が 2 つあったが、現在はいずれも解散している。</p> <p>我孫子市では、会話パートナー交流会と次年度派遣事業説明会をそれぞれ年 1 回ずつ開催。</p>		
<b>課題</b>	<p>○支援活動についての課題</p> <p>外出先での会話補助は、歩行や電車の乗り降りなど移動の見守り等を行う必要があるが、どこまで会話パートナーに支援を求めるか、明確な規定を設けることが困難。</p> <p>高齢の家族の介護、パート就労、その他のボランティア活動等のため、会話パートナーの活動日数が少なく、コーディネーターが難しいことがある。そのため、積極的な広報活動ができず、対象者が増えないという問題がある。</p> <p>○会話パートナーの会（団体）についての課題</p> <p>以前は、会話パートナーが設立した団体が 2 つあったが、現在はいずれも解散しているため、会話パートナー同士の交流が少なくなっている。</p>		
<b>その他</b>	<p><b>【担当課からの要望】</b></p> <p>①活動の頻度や内容</p> <p>②会話技術に関するブラッシュアップの方法</p> <p>③広報活動の方法</p> <p><b>【会話パートナーからの要望】</b></p> <p>①他の団体が行っている実際のコミュニケーション場面の紹介</p> <p>②言語聴覚士と会話パートナーの役割の違い</p>		

### 現在の活動

<b>①個別の要望への対応</b>	我孫子市の会話パートナー派遣事業は、個人へ派遣を行うもの。要望があれば、どのような内容でも積極的に検討している。現在は、地域での集まりのほか、映画・食事会、日帰り旅行、個人宅への派遣を行っている。
<b>②公的な会議や説明会などでの要約筆記</b>	必要であれば対応するが、現在は要望がない。
<b>⑥その他</b>	介護保険施設等への派遣、施設職員への技術指導

## 市川市役所・言語サービス ミカタ市川

所在地	千葉県市川市	団体設立年	2012 年
会員数		現在活動中の 会話パートナー数	10 名
主な活動先と 支援内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公民館会話支援活動 (全体会話に続いて、個別会話支援)</li> <li>2. 老人保健施設入所者への会話支援活動 (月に 2 回の個別会話支援)</li> <li>3. 市川市障害者団体会議の参加当事者への同行 (要約筆記、資料へのマークなど理解向上の補佐)</li> <li>4. 市川失語症友の会 げんき会例会への出席 (要約筆記・必要な方への個別理解向上支援)</li> </ol>		
団体の活動	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 失語症についての啓発講座：市民向け (平成 24 年度から年 1 回：講師派遣依頼先 和音)</li> <li>2. 失語症会話ボランティア養成講座 (基礎講座：ステップアップ講座：フォローアップ講座)</li> <li>3. 失語症会話パートナー派遣活動</li> </ol>		
課題	<p>○支援活動についての課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①利用当事者の方が固定的で新規利用者への広報が難しい</li> <li>②ニーズとして自宅派遣や外出支援があるが、課題があり実現が難しい</li> </ol> <p>○会話パートナーの会 (団体) についての課題</p> <p>市川市の事業計画・予算などの関係上、養成については 3 か年計画であり、パートナー養成数には限りがある。養成講座の受講者や派遣活動に残る方が少ない。</p>		
その他	<p>○他団体に聞いてみたいこと</p> <p>外出を伴う支援、自宅派遣などの実践について。</p>		

### 現在の活動

②公的な会議や説明会などでの要約筆記	市川市障害者団体会議に参加する当事者に同行し、要約筆記などを行っている。
⑥その他	介護老人保健施設の失語症市民入所者への月 2 回の個別会話支援を行っている。 (1 回 1 人 30 分)



## NPO 法人和音

所在地	東京都豊島区	団体設立年	養成開始 2000 年
会員数	受講生 332 名	現在活動中の 会話パートナー数	32 名 (葉書アンケート回答者数)
主な活動先と 支援内容	<p>和音で養成された会話パートナーはご本人の希望で都内各場所で会話支援のボランティアをしている。(講座修了時にボランティア先を紹介し、コーディネートしている。)</p> <p>○友の会、自主グループ、会話グループ、趣味の会(マージャン)等での支援 (約 35 箇所)</p> <p>○デイサービス、言語教室などの事業での言語グループの支援 (5 箇所)</p> <p>○和音の事業</p> <p>①会話サロンでの支援：要町 月 2、新宿 月 2 回×3 グループ</p> <p>②個人宅への訪問</p> <p>③外出同行支援</p> <p>④集団へのポイント筆記支援：失語症友の会東京支部例会、ゆずりは首都圏の集い</p> <p>⑤和音の機関誌、各種講座のスタッフ</p>		
団体の活動	和音養成の会話パートナーの会はないが、年に 1、2 回交流会を兼ねてフォローアップ講座を和音が開催している。		
課題	<p>○支援活動についての課題</p> <p>当事者からの希望として、会話の相手としてが多く、まだ社会活動への参加の支援希望があまりない。訪問はしてみたいが、お宅に入るのは躊躇する、という意見もある。</p> <p>○会話パートナーの会(団体)についての課題</p> <p>和音にも「会話パートナーの会」ができて、パートナー同士の交流が活発になってほしい。しかし、住んでいる場所も活動先もバラバラなので、なかなか難しいのが現状。</p> <p>和音のパートナー養成受講者は家族や介護職がほとんどで、ボランティアとして活動出来る人が少なくなっている。</p>		
その他	○他団体に聞いてみたいこと 会話パートナーが手話通訳者やガイドヘルパーのように地域の行政できちんと位置づけられるようになるのには賛成かどうか、ご意見を伺いたい。		

### 現在の活動

①個別の要望への対応	買い物同行。まだまだ少ない。
②公的な会議や説明会などでの要約筆記	個人ではほとんどない。 失語症者の会で参加者全体へのポイント筆記など年に数回。
③居場所作り	数カ所あるが、まったく新しく始めるのは難しい。理解のある母体が必要。 (社協の高齢者、障害者向けのサロンに登録するなど)
④見守り的な支援	地域性が無いので難しい。ご近所に居たら積極的に声をかけてほしい。
⑤緊急時の支援	地域性がないので難しい。 ご近所にいたら、積極的に知り合いになり登録してほしい。
⑥その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の福祉祭りや健康祭りに会話パートナーがブースを出して失語症や会話パートナーの啓発活動をした。</li> <li>・これから一人暮らしの人、家族は仕事をしていてなかなか同行できない、というような人が増える。そのような人に同行してもらい、情報の張り取りの支援が出来たらいいと思う。</li> </ul> <p>&lt;パートナーのアンケートから&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デイサービスなどにも入れたらいい</li> <li>・当事者とじっくりつきあうことで信頼も生まれ、会話も広がると思うので、長く続けてほしい。</li> <li>・パートナーとの会話に対して当事者の感想を聞きたい。</li> </ul>

### Ⅲ グループディスカッション

10 グループにわかれ、自由に話し合っていました。失語症会話パートナーとしての活動上の課題、今後の展開について、また家族としての思いなど、話題は多岐に及びました。出された意見の一部をテーマごとにまとめてご紹介します。

#### 1. 現在の活動について

##### ◇ 友の会や自主グループでの活動

- ・グループは当事者主体でと思うが、実際には難しい。
- ・10～20代の若い失語症の人への対応に戸惑う。
- ・独居の人や家族的な関わりが不足している人は自己肯定観が不足しがちの方が多い。友の会でも個別の時間にゆっくり話を聞き出す時間がとても重要だと感じている。
- ・失語症会員の高齢化により、活動していたグループがなくなってしまった。
- ・対象者の高齢化にともない、近くの喫茶店に行きたいなど、会話よりも生活の援助へのニーズが多くなってきた。
- ・歴史があるところは強いが、何もないとこから始めるのは難しい。



##### ◇ STとの関係

- ・担当するSTが替わると会の形が変わり、対応に迷う。
- ・若いSTは会話パートナーの役割について理解が曖昧で、活動しづらいことがある。
- ・STのなかで会話パートナーの認知度はどの程度だろう。失語症の人の生活を想像したら必要だと分かるはずだが、重要視しているのかどうか、疑問に思うこともある。
- ・STや家族に、会話パートナーの活動の意味、必要性を知ってもらう必要があると思う。

##### ◇ 失語症の人にとって私たちの存在は？

- ・失語症の人たちは、STと話がしたくて会に参加しており、会話パートナーを求めているように感じる。
- ・失語症の人たちに、自分たちの気持ちなんてわかるわけがないと言われた。
- ・私たちが力になれるか実感がない。
  - 場があるということ自体が大切なこと。
  - 失語症の人たちが満足しているのか、と常に考えることが大切。
  - 自己満足ではいけない。振り返ることを大切にしたい。
- ・会話パートナーに期待されることはなんだろう？どんなニーズがあるのかと考える。

- 生活のクオリティを高めることではないか。
- （会話パートナーの活動によって）失語症の人同士が繋がればいいのかと思う。

◇ その他

- ・活動には、経済的な負担（交通費の問題）も大きい。

---

## 2. 会話パートナーとしてのスキル

---

◇ 支援の難しさ

- ・板書は要点をまとめるのがとても難しい。
- ・会話のきっかけ、深まりをどう 作ればいいのか悩んでいる。
- ・生活の場面がいろいろあり、そういうところで必要とする手伝いが違うのも難しい。
- ・重度の失語症の人への支援が難しい。
  - 重度の失語症の人との会話でどうしてもわからない時もあり、申し訳ないが切り替るしかない。その時はわからなくてもある時わかることがあるので「考えておきますね」ということが大事だと思っている。
- ・1対1、友の会、外出などいろいろな形があり、それぞれ内容が違う。また、対象者の年齢、心理状態によってふみこめる範囲も違い、難しい。

◇ 会話パートナーのスキル

- ・会話パートナーとしてスキルがどれくらいあればいいのか分からない。
- ・活動上の悩みや技術の相談などは、他の人はどうしているんだろうと思う。
- ・スキルアップして、いずれはナースやヘルパーと同じような立場になればいいと思う。
- ・スキル検定が必要ではないかと思う。
- ・講座終了後、現場で学ぶだけでなく、スキルアップの場がもっと欲しい。
- ・長く活動を続けてもらうためには、養成だけではなくフォローが必要だと思う。
- ・グループではなんとか対応できているが、個人宅の訪問などを考えると難しい。

---

## 3. 会話パートナー同士のつながり

---

- ・会話パートナーの横のつながりがほとんどない。
- ・活動が広い地域にまたがっており、会話パートナー同士集まるのが難しい。
- ・広範囲で活動していて集まりにくい。もっと密にコミュニケーションを取るにはどうしたらよいか。
  - 定例会や勉強会などで、横のつながりを作り知り合うことが大事。

- ・会話パートナーの例会に参加するメンバーが固定化している。
- ・会話パートナーの会員数が増え、まとめるのが大変。
- ・会話パートナーを継続して続けてもらうにはどうすればいいか。継続できているのは、仕事をやめた高齢者ばかり。継続できない原因は、時間がない、手ごたえが得られにくいなどのようだ。
  - こまめに ST と交流できる勉強会などがあるといいかもしれない。
  - 会話パートナー同士が顔をあわせる場が大事だと思う。

---

#### 4. 家族として思うこと

---

- ・家族は日常を支えることで精一杯で、言葉のことにまで手が回らない。家族も理解し切れず諦めのムードが漂っている。
- ・夫が重度失語症になり、夫を理解するために会話パートナーになった。今後何ができるか模索中。
- ・会話パートナーの知識が、家族の介護に実際に役立つという経験をした。
- ・家族の介護があるため限られた活動しか出来ないが、人を支援して帰ってくると、家族にも優しくできる。
- ・家族も会話パートナーのように学ぶことが必要だと思う。
- ・友の会などでは、家族が参加することの意味も大きいと感じる。

---

#### 5. 失語症を広く知ってもらう必要性

---

- ・行政への働き掛けに関して、他の高次脳機能障害に比べ「失語」は影が薄いようだ。
- ・「失語症会話パートナー」「失語症」を知らない人が多い。
- ・公の力を借りるためにはどうすべきか？当事者は「声」を出せない。
- ・ヘルパーなどへの失語症の教育が不足している。
- ・失語症の社会的認知がないと外に出にくい。個人派遣よりも会話パートナーが至るところにいる状況が理想。
- ・市に会話パートナー養成を陳情したが、市は失語症、会話パートナーともに知らなかった。
- ・もっとメディアに働きかけることも有効ではないかと思う。

---

#### 6. 今後の活動の展開

---

##### ◇個人宅派遣について

- ・友の会などに参加できる人はよいが、出てこられない人への対応が問題だと思う。
- ・個人宅へは、ボランティアでは行きづらい。ある程度身分がないと難しいと感じる。

- ・「話」だけでなく、リハビリ効果を期待されているようだ。
- ・個人宅派遣を行うことには限界があると感じる。
- ・個人宅の訪問では、家族構成や趣味のことなど話題が固定化してしまい、話すことがなくなってしまふ。
- ・1対1は最初は不安だったが、行ってみたらゆっくり話せてよかった。会話は相手がいないと出来ない。会話パートナーはその相手になっているのだと思う。
- ・個人宅訪問のときは、ナースやケアマネージャーに同行してもらっている。会話もみてもらえるので良い。
- ・個人派遣がこれから増えていくのではないかと思う。和音では、三ヶ月ごとにまとめを書いて和音に提出するので、困ったことを相談することができて安心。不安だったが、最初は ST が一緒に行ってくれた。

◇ 新たな活動先の開拓には

- ・失語症の人がどこにいるか分からない。民生委員も含め、誰も把握していないのが現状。
  - 回復期リハの ST が地域の自主グループを知っていると、当事者に紹介してくれる。
  - ST やケアマネージャーから、退院する失語症の人に会話パートナーのことを伝えて欲しい。
- ・新たな活動先を開拓するために会話パートナーの知名度をあげていく必要があると思う。
  - インターネット上の情報提供だけでは高齢者には届かない。
  - ケアマネージャーの事業所、ST 養成校などにアピールを！
  - テレビなどマスコミの力を借りることができれば大きな効果があるはず。
  - 市のボランティア登録をする。
  - ST のいる障がい者センターに、失語症の人はいますか？と聞きに行くのはどうか。
  - 当事者や家族に会話パートナーの存在を知ってもらうために、行政の人にもっと PR して欲しい。
  - 会話パートナーのことについてのリーフレットを作りたい。



## Ⅳ ワークショップ

失語症の方とコミュニケーションする時に役立つものとして「スマホ／タブレットPC」と「イラスト」をとりあげました。この2つは会話パートナーから勉強したいとしばしば上がる項目です。少しでも皆さんの声に答えたいと企画しました。

この講座をきっかけに、失語症の方たちとの会話がより豊かに楽しく有意義なものになることを願っています。

### 報告

#### ① スマートフォンやタブレットPCを使って

参加者 38名



講師：石橋孝高／いしばしよしたか  
和音会話パートナー。IT 関連会社にフルタイムで勤務するかたわら、新宿失語症友の会のパソコン教室でボランティア。  
趣味はクラリネット。

スマートフォンやタブレットなどは上手に使うと失語症の方との会話が助けられ、タブレットを一緒に眺めて楽しくおしゃべりも出来る。今回は失語症の方にとって有効と思われる機能をいくつか紹介する。

##### 1. 検索する(地図帳や事典・辞書の代わりに) ～インターネット～

地図では画面をどんどん広げて細かい地名などまで探す事ができる。また、事柄、有名人、過去のニュース、歌などの名前がわからない時、関係したことばや記憶の断片を幾つか羅列して入力するだけで答えの候補が上がってくる。歌は歌詞だけでなく、メロディーやカラオケなども出てくる。

##### 2. 文字を入力する ～手書きや音声で文字を入力する操作～

スマホ・タブレットの画面に手書きで文字を書いて入力したり、音声で入力したりするやり方を紹介。キーボードから仮名文字を探して入力するのが難しい失語症の人には利用できそう。

##### 3. 手書のメールを送る

手書きの文字や絵をそのまま送信したり、メールに写真を添付する操作を紹介。アプリ「手書き電話 UD」を使えば、遠くの人と文字や絵での「会話」ができる。

##### 4. お手軽テレビ電話 ～「FaceTime」を使って遠隔地の人と会話をする操作～

「FaceTime」によって、手軽にテレビ電話が行えることを紹介した。失語症の人が外出しにくい場合、家にいながら会話の機会が持てる。

5. 画面を写真にとり保存 ～起動ボタン2つを同時に押す(機種により違いあり)～  
出ている画面を写真として保存。見たい時にその画面をすぐに出す事が出来、便利だ。

#### 6. スマホ周辺のかawaiiグッズ

スマホに接続できる小さなプリンターはメールや写真をその場でプリントできる。小さなプロジェクターはスマホの画面を壁に写し、みんなで画面を共有できる。

以上、ごく簡単に内容をご報告した。

詳細(アプリの名称、具体的操作など)を知りたい方は和音事務所へご連絡ください。使えそうなアプリが新しくどんどん開発されていますので、今後も継続して関心を持っていてください。ただし、操作にはまず「慣れ」が必要です。実際にどんどん触ってみてほしいと思います。



## ② 簡単イラスト講座

参加者 4 2 名



講師: 泉雅史 / いずみまさし

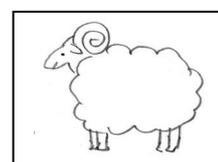
イラストレーター。1982 年東京都生まれ。主な仕事: 文芸誌の挿絵、書籍の装画、パンフレット・年賀状の挿絵など。

ウェブサイト [www.izumi-masashi.com](http://www.izumi-masashi.com)

この講座をきっかけにノートやメモにちょっとした落書きをするなど、普段から実物やお手本を見ながら描く機会を増やして欲しい。失語症の方との会話で必要なのは「すぐ描けて、簡単に伝わるイラスト」なので、今日は描き方のコツを少し話した後に実際に 1 分間で各自が描いたイラストを講評する。

●描き方のコツ (資料のイラストを使って説明)

①特徴的な部分を描く → 角・牙・模様・シルエット(大体の体形、かたち)



②無理に立体的にしない → 正面や横向きなど平面で描く

但し、立体的でない伝わらないものもある。例)皿の上の冷や奴

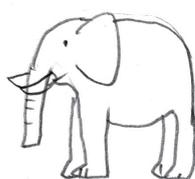
③形はだいたい、何となくのイメージ → 例)雀は群れている、コアラは幹につかまる

冷や奴に薬味や箸をそえる

### ●お題にあわせて描いてみよう!

1 分間でお題の絵を描く。ベルの合図でペンを置き隣同士で「何に見えるか」当てる。テーブル毎に、披露したい絵を他薦・自薦し、それについて講師が良い点などを講評する。

取り上げたお題)遊具、好きな動物、赤いもの (制限時間 各 1 分間)



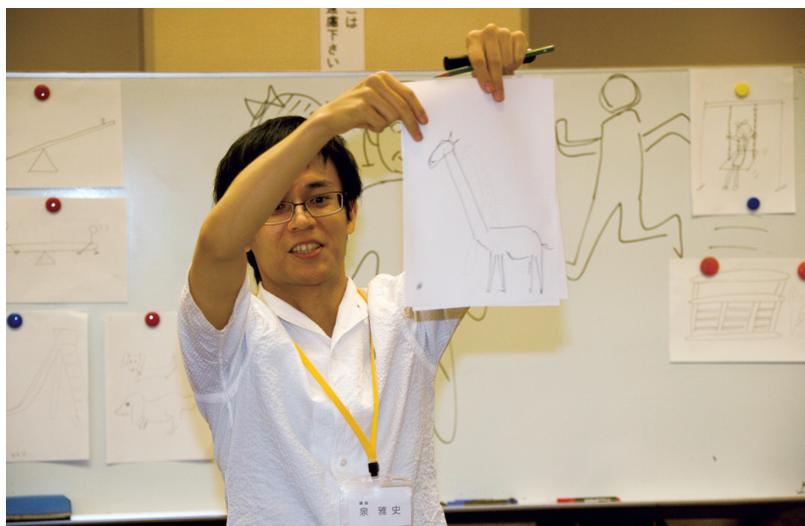
### ○会場の様子

講師の話の聞く時は皆さん真剣に集中し、お互いにイラストを見せ合う時はあちらこちらから笑い声や感嘆の声があがった。普段の活動で描き慣れている参加者は制限時間が余りお題にあった絵を複数描く方もいた。予想より参加者が多く、講評のときに絵(A4 紙)が見にくいときもあった。以下は皆さんが描いたイラストの例、( )内は講師のコメント。

\* 遊具: プランコ・滑り台・シーソー・ジャングルジム等 (人物も描きたすと大きさをイメージし易い)

\* 好きな動物: 犬・猫・キリン・イノシシ等 (猪のしっぽなど分からない部分は描かなくても特徴をとらえていれば十分に伝わる)

\* 赤いもの: りんご・トマト・ポスト・夕日等 (トマトのへたは星型にするとよい)



## 参加者の感想

「スマートフォン・タブレットPCを使って」に参加

東京都 世田谷区 新山 春子

わたしはスマホもタブレットも使っていないので、これからの会話の補助の新しい手法を学びたいと参加。和音のリソース手帳を取り込んだようなものかと予想していました。しかし、もっと進んだ利用法で、スマホとタブレットでの検索その他の機能を活用したものでした。キーワードを幾つか羅列して検索するだけで、候補のことばや写真が、見つけられるのは、失語症の人との会話にとっても役にたちそうです。（「黄色い花」「夏」「種を食べる」と入れたら、ぱっと候補の花の名前が幾つも出てきました。）また、今見ている画面を残す時は2カ所のボタンを一度に押すとその画像が写真の保存の中に入り、必要な時にすぐ見られるというのもびっくり。

時間の割に内容が多く、また実際に全員がタブレットを試す事もできなかったためわかりづらい点も沢山ありましたが、うまく使うととても有効なものだということがわかりましたので、使ってみようという気になりました。講師の石橋さん、お忙しいところ、有り難うございました。次回は期待しています。



## 「簡単イラストの書き方」に参加

千葉県 市川市 竹崎恵美

泉雅史先生のイラスト講座楽しく受講させていただきました。どうもありがとうございます。時間が短かったのがとても残念です。せめて60分は欲しかったかなと思いました。先生が講義に慣れてらっしゃらないのは見て取れましたが、とても一生懸命してくださったと思います。特徴をデフォルメして書くということを繰り返し強調され、実際に絵を書いてみるの指導はとてもよくわかりました。これからはシンプルでわかりやすいイラストを書くことが出来そうです。泉先生は私達が持っているもとの絵の能力でできるだけ簡単にわかりやすく描くということを教えていただき大変ためになりました。

もしこれからまたイラスト講座があるなら、絵が本当に苦手な人のために絵描き歌のように覚えれば簡単に描ける方法も教えていただけたらと思います。



# V パネルディスカッション

## 1. テーマ 「活動の広がりをめざして」

今回のつどいのテーマ「新たな連携と活動の展開」に呼応して、パネルディスカッションでは、失語症会話パートナーの活動がどのように広がりつつあるのかを、4名のパネリストに発表してもらいました。発表は最初に、名古屋で会話パートナーの会としてNPO法人を立ち上げた「あなたの声」の立ち上げまでの経緯を、次に、世田谷区の会話パートナーの会「世パネット」が失語症の人にもっと自分達の活動を知ってもらおうと作成した失語症回覧板について、そして四日市市からは市の事業として会話パートナー派遣事業が実施されるまでのご苦勞を、最後にNPO法人和音から会話パートナーが失語症の人の自宅に訪問して会話を楽しむ訪問事業について発表しました。それぞれの詳しい内容は資料をご覧ください。最後に、それぞれのパネリストの発表に対して質疑応答が交わされました。

## 2. パネリストの発表

### <パネリスト>

- ① 会話パートナー同士のつながり  
NPO法人「あなたの声」
- ② 会話パートナーの啓発  
川合英子(世パネット)
- ③ 四日市市の派遣事業制度  
堀本一浩
- ④ 在宅訪問について  
田村洋子(NPO法人和音)

### <座長>

NPO法人和音 副代表 小林久子



# ① 会話パートナー同士のつながり

## 愛知県失語症会話パートナーの会 NPO法人あなたの声

あなたの声は、失語症者のコミュニケーション支援活動の輪が広がるように次の事に重点を置き取り組んでいます。

- ① 会員の普及を図るために会話パートナー養成講座 を毎年開催しております。
- ② 啓発活動にも傾注し、通信の発行、リーフレットの発行 ホームページの開設を行い、広く市民に理解を求めています。
- ③ 会の運営は、皆が参加する事を基本に、役割分担を決めて会の運営を行っています。
- ④ NPO法人にすることにより、この会の継続的安定的を期待しています。社会的に信用が高まり活動の輪が広がることを期待しています

### 会話パートナーNPO法人あなたの声経緯

西暦	年号	内容
2000	H12	愛知県失語症友の会連合会
2004	H16	愛知県失語症地域支援を考えるSTの会
2005	H17	第1・2期会話パートナー養成講座開催
2006	H18	第3・4期会話パートナー養成講座開催
2007	H19-1	愛知県失語症会話パートナーの会設立世話役会
2007	H19-5	愛知県失語症会話パートナーの会設立準備委員会
2007	H19-7	愛知県失語症会話パートナーの会第1回定期総会
2013	H25-3	NPO法人設立総会開催
2013	H25-5	NPO法人設立申請手続き
2013	H25-9	NPO法人設立登記完了
2014	H26-4	NPO法人第1回定期総会開催(会員68名)

③

### NPO法人あなたの声申請内容

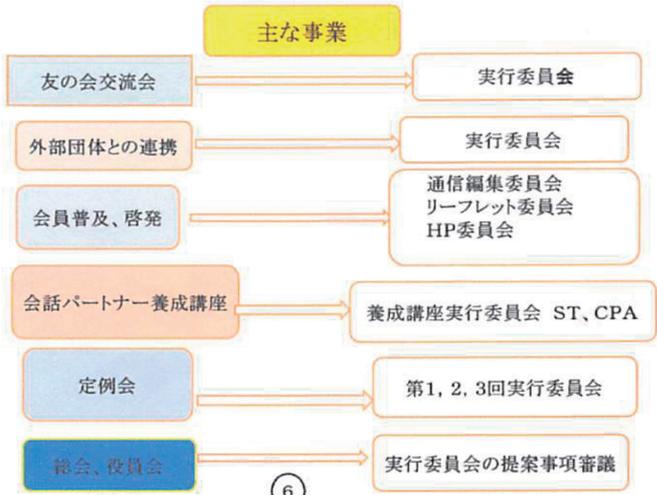
項目	内容
1	名称
2	代表者名
3	事務所所在地
4	活動の種類
5	活動に係る事業

④

### NPO法人あなたの声組織 会員87名 賛助会員35名

役職名	氏名	担当業務
理事長		組織全般
副理事長		友の会、連合会、他団体に関する事業
副理事長		会員の普及、啓発に関する事業、財政
副理事長		会話パートナー養成講座、技術向上に関する事業
理事		会計全般
理事		事務局
理事		事務局
理事		書記(各会議の議事録)
理事		会話パートナー養成講座事業
理事		地域支援、連合会、他団体の窓口
理事		技術向上に関する事業、他団体の窓口
監事		会計監査、他団体に関する事業
監事		会計監査、友の会、連合会に関する事業

⑤



⑥

はなの木会  
毎月第3日曜日 13:30~  
名古屋市障害者スポーツセンター  
連絡先: 粕谷志保子

みかん山友の会  
2ヶ月に1回 土曜日  
名古屋市総合リハビリセンター  
連絡先: 大島ゆかり

ふきのとう  
毎月第2水曜・第1土曜  
名古屋市藤が丘  
連絡先: 粕谷志保子、辻森悦子

ドリーム菜々会  
毎月第3火曜日  
連絡先: 近藤咲子

ブナの会  
毎月第2土曜日 10:00~  
江南市老人福祉センター  
連絡先: 大野美晴

会員の活動場所

ハートの会  
毎月第4火曜日 10:00~  
瑞穂区生涯学習センター  
連絡先: 加藤美穂子

あいちハート倶楽部  
名古屋市総合リハビリセンター  
連絡先: 近藤咲子

会員の活動場所

ドリーム伏見  
毎月第2火曜日、第4土曜日  
連絡先: 辻森悦子、根崎和子

知多言語の会  
奇数月第1日曜日  
半田市雁宿ホール  
連絡先: 児島千香子

ホトギス  
偶数月第2土曜日 13:30~  
一宮市 大雄病院  
連絡先: 田中春美

生活コミ  
名古屋市総合リハビリセンター  
毎週水曜日 13:00~  
連絡先: 岩橋秋子

笑い太鼓  
毎月第4日曜日  
連絡先: 大島ゆかり

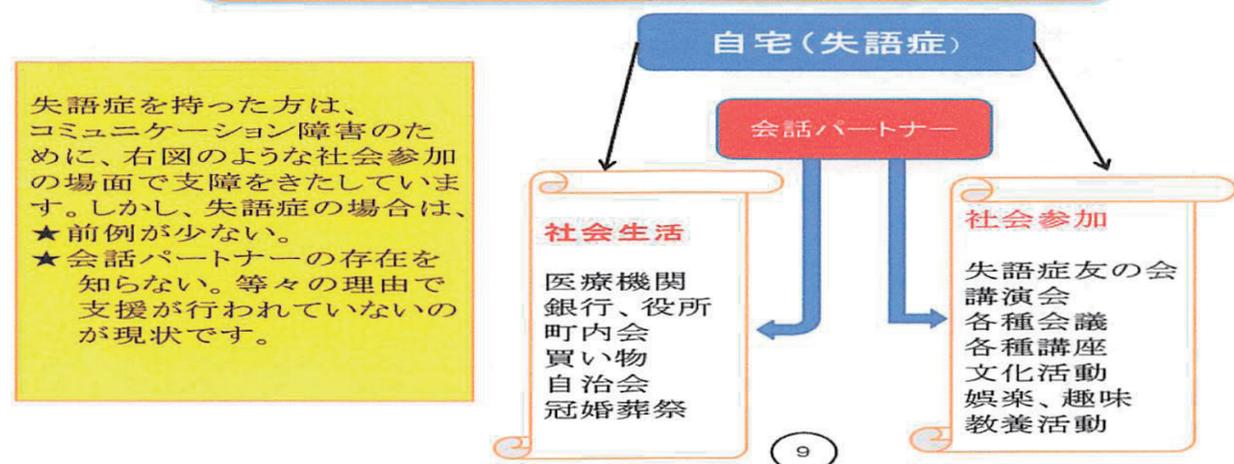
こだまの会  
2ヶ月に1回土曜日  
大山市中央病院言語室  
連絡先: 山木田文子

わだちの会  
毎月第2日曜日  
豊田市民活動センター  
連絡先: 玉置幸子

通所リハセン  
名古屋市総合リハビリセンター  
毎週水曜日 13:00~  
連絡先: 平手昌子

若い失語症者の集い  
奇数月の日曜日名古屋市  
奇数月の土曜日刈谷市  
連絡先: 藤井育子

失語症者の社会参加促進に向けた支援は



失語症を持った方は、コミュニケーション障害のために、右図のような社会参加の場面で支障をきたしています。しかし、失語症の場合は、★前例が少ない。  
★会話パートナーの存在を知らない。等々の理由で支援が行われていないのが現状です。

会話パートナーの活動

個人支援

 会話	 バス旅行	 グランドゴルフ	 パソコン	 役所窓口	 受付 医療機関窓口
 スリッパ卓球	 フーセンゲーム	 輪投げ	 買い物	 代筆	 囲碁・将棋

## ②会話パートナーの啓発

川合英子(世パネット)

### 「みんなで読む失語症回覧板」制作まで

世田谷区では2005年から失語症会話パートナーの養成を始め、毎年、10名前後が受講してきました。

区内で活動する会話パートナーの相互交流、意見交換の場として、2007年に失語症会話パートナー世田谷連絡会「世パネット」を結成しました。

現在、活動している会話パートナーは50名程度。失語症のグループ訓練や、区内に10グループある失語症者の自主グループで活動しています。

10年近く、私たちは失語症の方を会話、交流をとおして支援してきました。しかし、多くの当事者さんは私たちが失語症について、また、失語症の方との会話の仕方について学び、失語症者のコミュニケーションを支援したいと思っている「失語症会話パートナー」であることをご存じではありません。

また、私たち会話パートナーが「世パネット」を結成し、少しでも失語症の皆さんの力になりたい、応援したいと活動していることもご存じありません。

そのような状況から一歩を踏み出すために、「失語症会話パートナー」というボランティアがいる、ということ、世田谷にはその会話パートナーの団体「世パネット」がある、ということ、まず、もっと当事者さんに知っていただく必要があると考えました。

さらに、私たち「失語症会話パートナー」をただ支援者としてだけでなく、地域の仲間として、もっと身近な存在と感じて頂けるように私たちが努力する必要があるのではないかと。日ごろ、地域社会で会話の機会もなく過ごしていらっしゃる失語症の方が、私たちの顔を見たら、「何か言ってみよう」「立ち話でもしてみよう」と思ってくれるような存在になりたい、と思いました。

失語症当事者さんが「支援の受け手」「被支援者」ではなく、もっと主体的な存在となって、私たち会話パートナーとともに、失語症者へのコミュニケーション支援の必要性を周囲に訴えていくことができるような関係になれば、と思いました。

これが「回覧板」制作に至った思いです。

### 制作にあたっての基本は以下の3点

- ① 「失語症会話パートナー」を知ってもらい、身近に感じていただくこと。
- ② 「回覧板」を会話パートナーが当事者さんに手渡しすることで、会話のきっかけとして利用し、また当事者さんから疑問や質問をいただけるような内容にして、会話のタネとする。
- ③ 当事者さんに失語症に関連する催しや情報等を分かりやすく提供する。

### ネーミング

「みんなで読む失語症回覧板」はいろいろ考えた末の名前です。当事者さんからさらにご家

族や、病院、地域などで出会うお仲間などに会話のタネとして利用していただきたい、単なる「お知らせ」などの広報に終わらせたくない、との願いを込めたものです。

### 今後に向けて望むこと

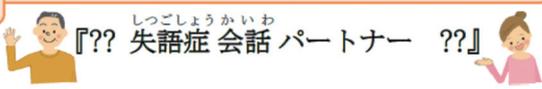
当事者さん同士がお互いの失語症についての理解を深め連帯して、主体的にご自分に必要な支援を考え、訴えてくださるようになることを期待しています。

そのために、当事者さんに支援者の存在や支援の方法などを知っていただいて、私たち会話パートナーを上手に活用していただけるようになることを願っています。

みんなで読む 失語症 回覧板

第1号

発行 2014. 7. 1      世パネット 失語症会話パートナー世田谷連絡会



『?? 失語症 会話 パートナー ??』

?? 失語症会話パートナー 知ってますか ??

①知っている      ②知らない

世田谷区では 平成17年 (2005年) から

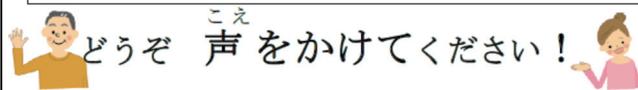
失語症会話パートナー を 養成しています

?? 世田谷区に 失語症会話パートナー 何人いる ??

① 10人ぐらい      ② 30人ぐらい      ③ 50人ぐらい

失語症会話パートナー は

「失語症の皆さんと 話したい!!」 と 思ってます



どうぞ 声をかけてください!

読む 失語症 回覧板」 とは …

- ・ 皆さんの 会話が 広がるように、『世パネット』が 発行

ト』 とは …

- ・ 世田谷区の 失語症 会話 パートナーの 団体
- ・ 設立 平成 19年 (2007年)
- … 会員 50人 以上 (平成 26年 6月 現在)
- … 自主グループ、高齢者施設などの リハビリグループで 会話 支援

失語症 会話 パートナー の 養成 …

- … 世田谷区では 平成 17年 (2005年) から
- … NPO法人「和音」では 平成 12年 (2000年) から
- … 失語症について 講義、会話の 仕方を 勉強

### ③四日市市派遣事業制度

よっかいち失語症友の会 堀本一治

#### 堀本一治さん プロフィール

- 平成8年9月、脳内出血で失語症
- 言語リビリのSTの紹介で「よっかいち失語症友の会」入会
- 平成16年度～24年度:よっかいち失語症友の会の会長
- 平成19年度～25年度:全国失語症友の会連合会の「理事」



(つどい当日は堀本氏欠席のため司会が代読)

## 事業開始までの活動の歩み

### はじめ

- \*平成16年4月:「よっかいち失語症友の会」の総会にて「会話パートナーの養成事業計画」採択。「失語症会話パートナーとは」の講演会開催(講師:東京都地域ST連絡会)
- \*平成16年11月:「よっかいち失語症友の会」主催1回目の会話パートナー養成講座開催。修了者は27名。
- \*平成16年12月:四日市市障害者大会で、「会話パートナーの制度化」を訴えた。

### 次のステップ

- \*平成20年 5月: 四日市市身体障害者団体連合会重点活動方針「パートナー派遣事業」
- \*四日市市の広報に「失語症とは」の特集記事2ページ(図1)が、掲載された。

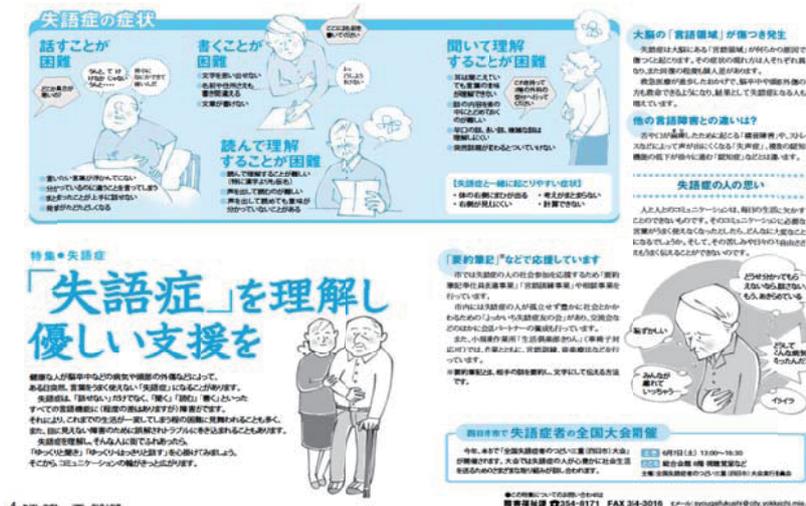


図1 四日市市広報「失語症とは」特集記事

- \*平成20年 6月 全国失語症友の会連合会 全国大会 三重(四日市市)大会を開催

中日新聞、毎日新聞、伊勢新聞、四日市のケーブルテレビが取り上げ→行政、市民啓発  
\*平成21年3月：我孫子市へ視察 \*平成21年7月：「会話パートナー養成・派遣準備委員会」立ち上げ。

## そして…

\* **平成21年8月～22年11月**(10回の会議)  
「会話パートナー養成・派遣準備委員会」  
「四日市市個性ある町づくり支援事業補助金」を受けて(3年間)、パートナー養成と派遣事業が実現。

\* **平成22年1月24日**：**第2回目**の養成講座  
開催。登録者：21名。

\* **平成22年11月～**：運営委員会を9回開催。

\* **平成22年12月**：派遣開始

1回の派遣で、交通費程度：1,000円の支給

\* 「個性ある町づくり支援事業補助金」での派遣事業の派遣人数：**延べ463名**

*この実績がみとめられて、制度化が実現味を帯びてきた*

## 委員会メンバー

四日市市議会議員  
四日市大学教授  
言語聴覚士  
有識者(民生委員)  
会話パートナー  
四日市市障害福祉課  
四日市市社会福祉協議会  
四日市市身体障害者団体連合会  
よっかいち失語症友の会

計 17名

## ついに…

\* **平成25年度** **四日市市失語症会話パートナー派遣事業開始**

\* **平成25年6月30日**：啓発公開講座「失語症にならないために」開催 参加者100名。  
会話パートナー養成講座受講生募集を開始

\* 会話パートナー啓発用のパンフレット作成：四日市市内の、各市民センター、社協、障害者福祉センターの窓口、障害者団体、主なりハビリ病院などに配布

\* **平成25年9月**：**第3回目**「会話パートナー養成講座」開催 受講生30名  
基礎講座：6回 演習：3回 → 23名が四日市市会話パートナー登録

\* **平成26年2月**：会話パートナースキルアップ講座開催

参加者26名：日頃の感想、疑問点、困った時の対応策、自分の対応で、当事者さんに喜んでいただけた事で、不安感が解消した事など、課題や、効果などについて話しあった。

## 失語症会話パートナー派遣事業内容

目的：四日市市会話パートナー派遣事業実施要綱から

意思疎通を図ることが困難な、失語症者の社会生活等における、コミュニケーションを円滑に行い、もって失語症者の社会参加の促進を図ることを目的とする。

派遣対象

- \* 市内在住の失語症者
- \* 原則として身体障害者手帳の交付者

- \* 失語症で意思疎通が困難な方

★医師や言語聴覚士が失語症で意思疎通が困難であると判断をされた方

### 会話パートナーの要件

- \* 市内在住、在勤の方
- \* 「会話パートナー養成講座」を修了された方



### 会話パートナー派遣先

- \* 失語症者が参加する会議
- \* 失語症者のために行われる催し物団体活動等
- \* 障害福祉センター主催する事業
- \* 現在は、個人派遣は、認められていない。

★宗教、政治活動に関する場合や営利を目的とする場合などは認められていない。

### 会話パートナー派遣の範囲・時間

- \* 原則として市内のみの派遣
- \* 例外として、失語症者の社会参加の促進に、役立つものと、市長が認めたものは、市外派遣も認められている。
- \* 派遣時間は、原則午前8時から午後9時
- \* 1人の派遣時間4時間以内(一日)



### 会話パートナー派遣費用

- \* 失語症者の負担はなし(無料)
- \* パートナーへの報償費(交通費込み) 1時間 1,394円 支給

### 派遣事業運営主体

- \* 四日市市からの委託事業として NPO法人 障害者福祉チャレンジド・ネットが運営
- \* この事業の担当理堀本+3名の、コーディネーター
- \* 自分の思いが通じたときの、当事者さんの笑顔が、とても印象的
- \* その笑顔が一杯見られることに、この派遣事業の意味がある。
- \* 平成25年度 実績 派遣総時間:1066 時間 派遣延べ人数: 403 人
- \* 平成26年度の派遣目標は、1439時間。一層の充実を目指す

### 会話パートナー派遣による効果

- \* コミュニケーションが円滑に行えるようになった
- \* 言葉が通じることによって、会の雰囲気明るくなった
- \* パートナーが「確実に付いてくれる」という安心感から、参加者が増えた
- \* パートナーとの信頼関係が生まれた
- \* パートナーが失語症を理解する事で、それぞれの地域での啓発に繋がっている
- \* 障害者総合支援法・地域生活支援事業の「意思疎通支援」コミュニケーション保障の事業対象に、失語症を必ず位置づけられるように



## ④在宅訪問について

NPO 法人和音代表 田村洋子

和音が 2006 年度から実施している、会話パートナーの個人宅への訪問活動について発表しました。大会後新たに 2 名の方の訪問が決まり、実施総数と参加した会話パートナーの数が発表時より増えています。2014 年 10 月現在、4 名の失語症の方への訪問活動を実施中です。

また会場では、実際に訪問活動に参加した 2 名会話パートナーさんに、訪問した感想なども伺いました。

### 訪問の目的

身体的状況、精神的状況、環境の問題などで集団の場に参加できない失語症の人に会話の機会を提供する。

### 訪問概要

- ・申し込みがあると、コーディネーター(ST)が通いやすい会話パートナー(OP)を探す。
- ・原則 ST からの紹介が必要
- ・初回は会話パートナーと一緒にコーディネーターが訪問し、訪問が妥当であると判断されると契約を交わす。
- ・利用料金
  - ST の訪問調整料(3000 円)
  - 会話パートナーの交通費(実費)
  - システム利用料金(300 円/1 回)
- ・原則 2 回/月、6 カ月だが、延長は可能
- ・3 カ月時にコーディネーターが本人・家族に様子を聞き取り、続けるかどうか確認する。
- ・会話パートナーは ST に訪問報告を行い、アドバイスを受ける。
- ・6 カ月ごとに契約を更新し、利用料金の精算を行う。
- ・2 年経過すると ST が訪問または電話にて、さらに延長するか、延長する場合和音のコーディネーターが必要かどうかの確認を行う。

### 実施内容

- ・これまでに 17 名の失語症者の自宅や居住施設への訪問を実施した。
- ・参加した会話パートナーは延べ 19 名
- ・訪問目的は、楽しい会話、パソコン指導、自分史作成の手伝いなど

## 実際に訪問活動を行った2名の会話パートナーさんの感想

### 1) 黒川武志さん

#### <訪問の相手と経過>

一人目は 60 歳代の男性。定年退職少し前に、仲間とグループで会社を立ち上げていた。最初は言葉と仕事にかなり不安を感じていた。訪問期間中友達との親交が深まり、6 ヶ月で終了。

二人目は、50 歳代の男性。この人は、リハビリに海外まで行くような熱心な人。6 ヶ月の訪問を 4 期行い、2 年経過後、和音を介さないで形で訪問を続け 3 年半経過している。現在は元職に復帰。今も言語リハビリと私との月 1 回の会話を継続している。ご本人と奥さんの努力が絶大だと感じている。

#### <自分自身の継続について>

あまり力まないでやっているのが良いのではないかなと思う。迷うこともあるが、あまり悩まずにやっている。世代的にも近いので、つきあい話の様なものでも続いている。



### 2) 泉マヤさん

#### <訪問の相手>

90 歳近い男性の方で、外出があまりできないので、ご自宅に訪問することになった。関わりは 1 年間。

#### <訪問に行って感じたこと>

グループの手伝いの経験しかなかったので、1 対 1、1 時間というのは始めはちょっと怖いと感じた。グループ内では、症状の重い方は聞いているだけで終わるようなことがあり、もっと関わった方が良いのではないかなという様な思もあったが、1 対 1 では本当に、伝わったとか伝わらなかったとかを、お互いにキャッチボールでき、お互いに「伝わった感」を感じられたことがすごく良かったと思う。

そのうち、お相手の方が、ご自分で話題、伝えたいことを用意してくれるようになった。ことばを操る能力という人間らしさの一番もとになるものを失った方が、また自分で何かを人に伝えたいと、何かしら用意して伝えてくれるという行動、あの人に伝えようと思いつく、そういう機会になるのだということが、よくわかった。

経過が長い失語症の方と接する時には、健康面、笑顔の有無、満足して毎日を送っているか、最後に、どんなことを考えるようになったかというのを測るのが大事だと聞いた。1 対 1 の会話はそういう面があると感じた。



---

### 3. パネルディスカッション質疑応答(抜粋)

---

【「あなたの声」へ】

Q;活動の元になる、会話パさん同士のつながりはどう生まれていったか？

A;会話パ同士の連絡の行き違いなどの問題を乗り越え、数年かけてコツコツとやってきた。自分にとっては、ボランティアは、会長さん、組織作りをする仲間、友人、その家族などの具体的な誰かの役に立ちたいという小さな思いが、きっかけとなっている。そして、その継続が大事。

【「世パネット」へ】

Q;失語症回覧板を、当事者にどのように届けているか？

A;基本的な考え方は、会話パートナーが当事者さんとの会話のきっかけにすること。原則的には自主グループ(10カ所)を運営している会話パートナーが当事者さんに手渡し。受け取った当事者さんが回覧してくれればと考えている。当事者さんを蚊帳の外において会話パートナーが勝手に考えるのではなく、できればもっと身近で、当事者さんが私たちを引っ張ってくれるような存在になって、地域の仲間として一緒に歩いて行きたい。

【四日市市へ;(代理の応答 石崎さん)】

Q;四日市のパートナーの1ヵ月のニーズは？

A;基本的に月1回の失語症友の会の活動、月2回の障害者福祉センターでの1対1のお話の会、障害者団体の会議へ派遣。月に9時間分ぐらい。友の会に毎月8人ぐらい、1対1のお話の会には8人~10人ぐらいの要請。会話をすることと、会議での要約筆記とは求められるスキルが異なるのでコーディネイトが大変。十分要請に答えられていないときもあるようだ。四日市から出ている予算は、ほとんど派遣費。事務費、コーディネイト費はいつい含まれない。派遣費が出ることで、希望者が増えたというのも事実だが、続くかどうかは別の問題だと思う。

Q;「失語症者推定 1000 人」の根拠は？

A;発症率から、四日市の人口から考えた推計。



## 【和音へ】

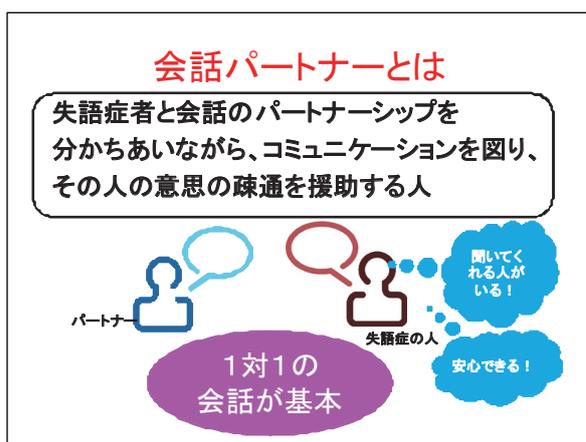
Q; 個人派遣の際、相手の方と合うか合わないかというコーディネートはどの様にしているか？

A; そうすることも予想して、3ヵ月で見直しをする。和音の会話パートナーは登録制ではないので、組織的に誰かを派遣するということとはできない。日頃の活動状況をできるだけ把握して、交通の便が良く、実際に何年か友の会など経験している人などを、ST に問い合わせて、その方に依頼する。“合う”“合わない”は、会話パートナーの側からでも申し出はできる。

Q; 訪問での具体的なアプローチの内容、変容はどこをとらえるのか？それを他の会話パートナーが閲覧できるか？

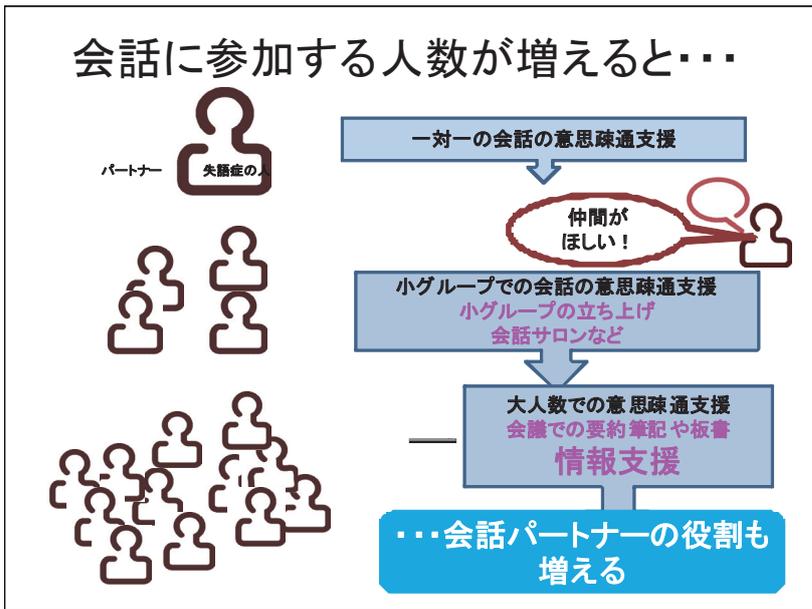
A; 訪問の目的、概要など最初に失語症の人に一緒に読んでもらうが、そこに「目的：楽しい会話」と明記している。その方が言語的に回復するのが目的ではない。その時間を楽しく、生き生き過ごしてくれること自体が訪問の目的と考えている。変容の様子は見聞きするが、それは目的ではない。

## 4. まとめ



会話パートナーは、失語症をもつ人と支援する人が対等な立場であるという姿勢をもち、本人の意思を尊重して、確認しつつ周囲とのコミュニケーションを支援する人である。一対一の会話から、会話パートナーの仲立ちによって、複数の仲間とのコミュニケーションが可能となると、同じ思いを持つ人同士が集まり、各地に小さな自主的なグループが生まれている(参照：各団体の紹介)。また、より多くの人が集まる会

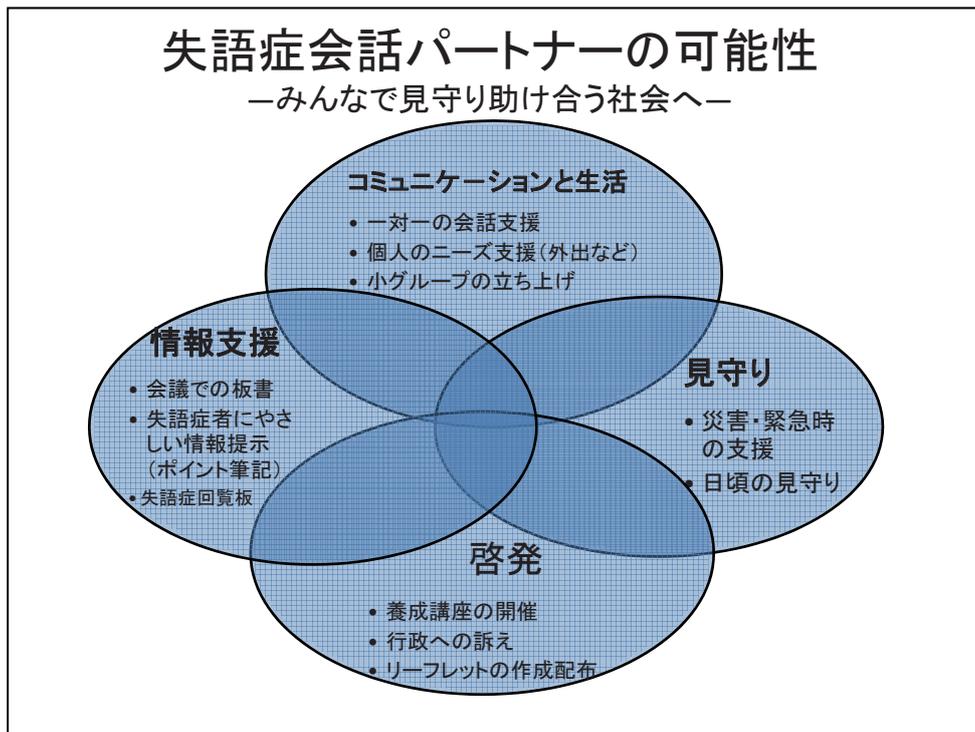
議や講演会などでは、そばにいて会話を支援するという基本の上に、板書やIT機器を駆使して提示法を工夫している。これは失語症者に対する情報アクセス支援とも言える(例：友の会での板書支援、失語症友の会全国大会での講演のpcでの提示)。このような活動や経験を通じて、失語症の人たちは、悩んでいるのは自分一人ではないことがわかり、少しずつ安心感や自信を取り戻しているように見える。そうして再び社会へと目が向くと、多様なニーズが生じてくる。買い物につきあってほしい、自宅に来てほしいという個人的な要望(例：パネルの和音)のみでなく、役所に行きたい、自主グループの開催場所を交渉したいなど、会話パートナーの支援のもと、社会人として元来持っていた力を発揮する人もいる。



一方、その意思に応えたいという会話パートナーの側にも、様々なジレンマや問題意識が生じている。ここで語られた活動は、もっと会話パートナーの数を増やしたい、世の中の人にもっと失語症のことを理解してほしい、自分達の存在を失語症の人にもっと知ってほしい、行政にも訴えたいという

思いからの具体的な活動だった。失語症会話パートナーの役割は広く、その可能性は図で示したように様々な次元に広がっている。四日市市のように市が派遣事業を開始した地域もある。平成 25 年に制定された障害者総合支援法には、意思の疎通が困難な障害者に対する支援の方法を検討すると明記され、四日市市の例は先駆的な試みとして注目されている。

失語症会話パートナーの活動は、まだまだ試行錯誤であり、いまだ人数も少なく、身分的な保証は何もないが、意思の疎通、情報の保障が不十分な人びとへの支援は、差し迫った課題である。このつどいを通じて、社会の進展とともに、地道に積極的にこの活動を続けていく勇気をもたらったと感じている。





つどいでは、お互いの活動の様子や悩みをディスカッションしたり、スマホ講座で会話補助のヒントを得たりしました。パネルディスカッションでは、全国の取り組みを聞くことができ、パートナーさんだけで組織化、組織のシステム化を図り成り立っている団体や、行政が支援している団体もあると知り驚きました。

私達「あんど」は、小規模ではありますが、身の丈にあった活動をすれば、息の長い団体、支援になると思いますし、私たちらしく失語症の方に支援できる中で、新たな活動が展開できていけば良いと思いました。

和音さんよりメーリングリストの紹介がありましたが、全国のパートナーさんと情報交換ができるのでとても良いツールになると思います。メールを使える環境でない方でも、団体の代表メールなどに届けば、印刷して刊行物として配ることも可能だと思いました。

どこの団体も、支援の仕方が違ってても、どうしたら失語症の人の力になれるのかという思いは一緒だと感じました。私にとってとても貴重な一日となりました。



◇佐々木恵子(NPO法人和音)

私は、4年前脳出血による後遺症で失語症になった夫を理解するため、和音の「失語症会話パートナー養成講座」を受けた。講座終了後ボランティアを続けているのも、今の夫をより深く知りたいという動機からだ。そんな利己的な思いからではない会話パートナーがこんなにも沢山いらして、当事者のこと、自分たちの役割について真剣に討議していることに胸を熱くした。

午前中のグループディスカッションで同じグループになったST歴1年の若い男性が「自分の担当する当事者とのリハビリがうまく進まない。何かヒントはないかとネットで探し求め、このイベントに辿り着き締め切り間際に申し込んだ」と自己紹介で仰った。他の方々も様々な思いを抱いて集まって来たことを知り、自分の現在とこれからの生き方を考えるいい機会になったと思う。残念だったのは同じグループになった方だけとしかお話が出来なかったことだ。最後に簡単な立食の懇親会のようなものがあつたらもっと色々なお話が伺えただろうと思う。それにしてもあのような短時間で盛り沢山のプログラムを用意して下さった主催者の方々に感謝申し上げたいと思う。ありがとうございました。

追伸 想像を絶する程絵が下手なのだが、45分で上手くなろうと意気込んで参加した。やはりそれは無理で、上達にはコツコツ練習するしかない事を改めて学んだ。一日一絵の決心をした。

## VII 参加者アンケートの結果

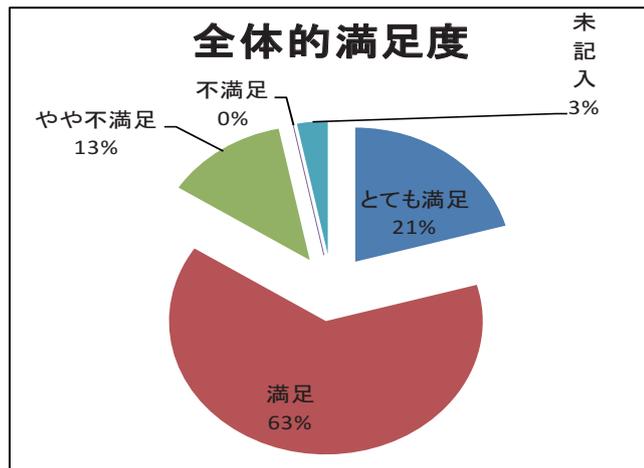
[参加者数 79 名 / アンケート回収数 63]

★前回「全国失語症会話パートナーのつどい」(2009 年)に参加しましたか？

前回参加	初めて	未記入	計
10	43	10	63

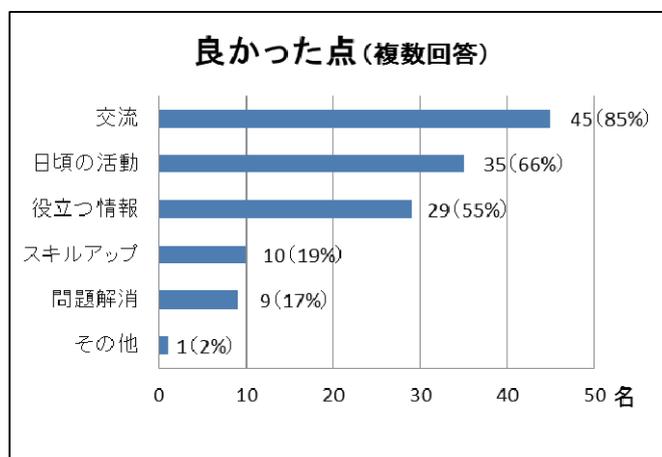
1. 本日のつどいの内容全般について、ご満足いただけましたか。

とても満足	13
満足	40
やや不満足	8
不満足	0
未記入	2
計	63



2. (1で「とても満足」「満足」を選んだ方)どのような点が良かったですか。(複数回答可)

役立つ情報が得られた	29
日頃の活動の参考になった	35
スキルアップにつながった	10
他の参加者と交流・情報交換が 図られた	45
抱えていた問題・不安の解消につ ながった	9
その他	1
計	129



### 自由記述より抜粋

- 会話パートナーはリハビリを担当する人ではない。一緒に居て気持ちの良い関係になることで当事者がおだやかな楽しい時間を過ごせるようになることが第一義と改めて感じた。
- 自分の地域で行っていない活動の話が聞けたので、今後の参考にしたい。
- 他と比較することであり方、不足していること、アイデアを知ることができた。
- 同じような悩みを共感してもらえて少し安心した。
- 先駆的なところも、手探りのところも悩みながら、必要性を感じて工夫しているのを見て、基本に立ち戻る事ができた。

### 3. (1で「やや不満足」「不満足」を選んだ方)どのような点が良くなかったですか。

(複数回答可)

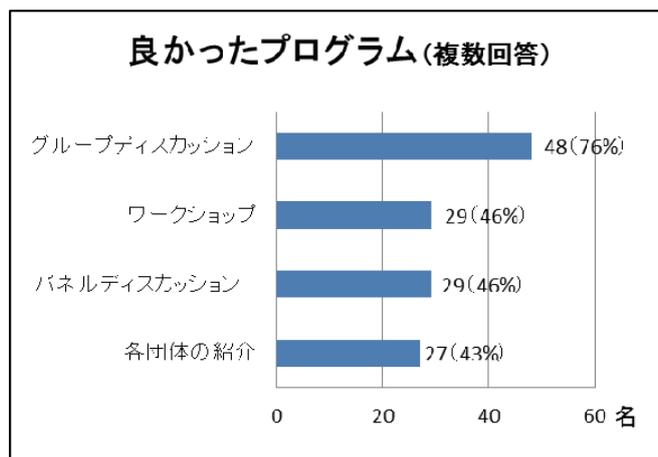
役立つ情報が得られなかった	1
日頃の活動の参考にならなかった	2
スキルアップにつながらなかった	2
他の参加者と交流・情報交換ができなかった	1
抱えていた問題・不安の解消につながらなかった	1
その他	0
計	7

- どのプログラムにももっと時間がほしかった。
- スマホのワークショップは期待はずれだった。普段の会話でこんな活かし方があるという技が学べると思っていた。
- 漠然としたテーマで思いや悩みを話されると、お互い何を伝えあったらいいのか、よくわからない時間を過ごした。
- せっかく遠方の人も参加して下さったが、具体的な様子など聞く時間がなかった。
- 質疑応答の時間が少なかった。

### 4. プログラム内容について、感想をお聞きます。どのプログラムが参加して良かったですか。

(複数回答可)

各団体の紹介	27
小グループでの交流	48
ワークショップ	29
パネルディスカッション	29
計	133

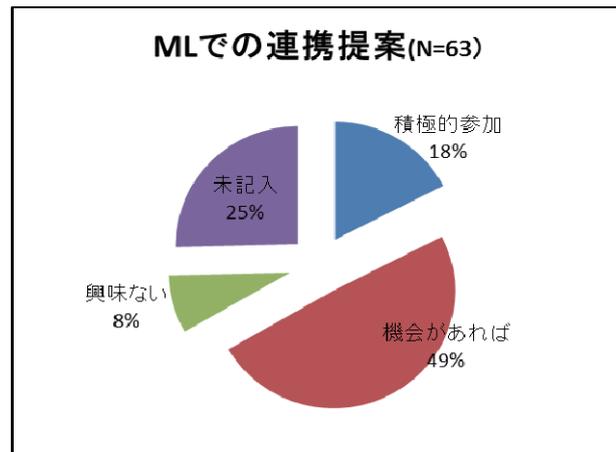


- **団体紹介・グループでの交流会:**
  - ・ 各団体の多様な活動の様子がわかってよかった。共通の悩みもわかった。
  - ・ 交流の内容の発表がなく残念、後日まとめがほしい。
  - ・ もっと表面だけでなく深い部分での話し合いがしたかった。
  - ・ 時間がなくあまりまとまった話し合いができなかった。
- **ワークショップ**
  - ・ 手軽なイラストはよいコミュニケーションの役立つ手段。ポイントがわかり楽しかった。
  - ・ 同会場で異種のワークショップは無理があった。環境配慮に欠けていた。
- **パネルディスカッション**
  - ・ 愛知のNPO化への熱意、四日市の派遣事業、訪問者の実際の声、コーディネートの苦勞など興味深く、話が深まった。
  - ・ なかなか変わらない問題はあるが、制度や規模の広がりもあり、少しでも進めていかなければ。

## 5. 今後のネットワーク作りに関する和音の提案:

全国の会話パートナーが任意に参加できるメーリングリスト(ML)を作り連携することに

積極的に参加したい	11
機会があれば参加したい	31
あまり興味がない	5
未記入	16
計	63



- この種の手段に慣れてないのでぼつぼつやりたい。
- 携帯やパソコンを持っていない会話パートナーも居るので、刊行物(年数回)とかでもいいかと思った。  
ML にファイルで代表者に送り地域で印刷して配布する方法はどうか？
- メンバーが広がるとセキュリティや管理の問題がちょっと大変かなと思った。
- 個人情報があまり大切に扱われない不安がある。
- 背景がわからないと ML での連携はむずかしいのではないかな。
- ML の利点がよくわからない。
- ML による会話パートナーの連携はいいアイデアだと思うが、果たして活発な意見交換が展開されるかどうか疑問(私の加入している ML からの感想)。
- きっとひとつひとつのアイデアが何かに役立つと感じる。まずは情報の共有を。
- 活動報告など共有できると嬉しい。
- 情報交換を常にやる必要があると考える。

6. 本日のつどいの内容及び今後の会話パートナー活動や連携の展開に関してご意見やご感想があれば自由にご記入ください。

### 【前回との比較】

- 前回に比べて活動が深まり充実。この広がりを大きくしていかなければと思った。自分自身の活動は微々たるものだが、何とか広げていきたい。
- 5年前より社会への発信をやっていることを感じる事ができた。これからの方向性が示されていることもあり、明るい光(道筋が見える)感じがして、参加して良かったと思った。

## 【活動全般に関して】

- 今後ネットワークの情報を得ながら、自分達のところで地域や社会に向けてやって行けたらと思う。災害時の支援についても話し合う必要があるのではと思っている。
- 失語症者も人間なので個性が色々だが、現在自主グループやリハビリ、デイサービスといった位で居場所にバラエティがなさ過ぎる。訪問支援はその意味で求められる活動だと思う。
- 役所の手続きに同行というような事案になると何か間違いがあった時に会話パートナーの責任が重すぎる。手話通訳とは異なる会話パートナーの限界を感じる。
- 私の願いは会話パートナーまたはコミュニケーション支援を学んだ人が役所、銀行、病院、駅などに必ず居ること。理解のむずかしい人たちに優しい社会はどんな障害者にも優しい社会になるはず。
- サービスに結びつかない人に対し、どのように情報を伝えていくか、大きな課題だと思った。ケアマネージャーや民生委員、地域の町内会の力を借りることができればと思った。
- キーワード“楽しく”が支援する側にあることが、支えられる側にも届く。それが寄り添いのコミュニケーション。楽しく生き生き生活していく基になると思う。
- これだけ全国に会話パートナーがいるというので、もっと広がり、当たり前知られる存在になっていくのも遠くないと思った。
- 同じ気持ちで活動している人が全国に沢山いること、これからもっとこの活動が広がっていく有意義な活動であると実感できて大変よかった。
- 全国で様々な形で様々な方が失語症の人をサポートすることを考えている。全国的に一定の質を保ったこの活動が広がっていくといいと思う。
- 失語症の人が本当に求めていることは何かを掘り下げて考えてみたいと思った。
- 行政へつながる方法の good idea をほしい。

## 【会話パートナーの資質に関して】

- 会話パートナーはこれでよいのか評価(他からも自らも)を求めている。指導者や情報、地域の資源(自分の県にどんな団体があるのか等も)ほしい。
- 会話パートナーの専門性がさらに問われる規模になってきていると感じた。会話パートナーへの高次脳全般への情報提供の必要性が高まっているのでは。特に訪問では個別の個人への取組以上にはないと改めて感じた。コーディネート責任が大きい。
- 会話パートナーの人が「資格」ではないのでと言う人がいる。まず「実際の活動」ということでこれまでやってきた。「その次の段階」があるのか？他の例からはわからなかった。

## 【つどいの運営に関して】

- 参加者の幅が広いためディスカッションや学びたいことが分散したように思う。(たとえば組織をどう作っていくか、を考える人と、会話パートナーになったばかりでコミュニケーションをどうとつたらいいのかを考えている人と)テーマ別の分科会という形も今後とれるといいかと思う。
- どんなきっかけが知識につながるかわからないので、関連の本がもっと沢山あっても(展示)良いと思う。
- もっと知ってもらうのに「インターネット上の講座」とか設けてもいいのでは？ただのアイデアですが、これで会話パートナーになれるのは良くないと思いますが…。
- 集合写真をとりたかった。より短い間隔でまたつどいたい。
- 写真を見せてくれる失語症の人が居て、コミュニケーションの幅が広がっている。上手に使えるとコミュニケーションは広がると思うが、ガラケイ世代なので、わかりやすいアドバイスをもらえる機会があるとありがたい。”
- 行政担当者(情勢報告)、学識経験者(問題解説)の参加により、視点を考える
- 初めて参加したが、充実した内容であったと言う間に過ぎた。
- 特別なテーマ設定、役に立つ情報(法律など)も良いと思う。
- 講習会後の親睦会があればいいのにと考えた。

## 【実行委員会まとめ】

- 色々な団体との交流ができ、有意義な時間だったという意見が多かった、反面、もっと話を深めるために、交流時間の短さを指摘する意見も多かった。
- 失語症会話パートナーが全国に広がりを見せていることを心強く感じると同時に様々な課題も指摘された。
- 運営に関しては、充実した内容だったと感じるという意見が多かった。次の課題への提言も多く寄せられ、関心の高さ、問題意識の高さが示された。

## VIII 連携への提案

全国失語症会話パートナーのメーリングリスト

# 全国会話PAML できました！

全国の会話パートナーと  
メールでつながります



1つのメールアドレスで、登録している人みんなにメールが届きます。

こんなメールが届きます

- ① 定期便（年4回）  
各団体の活動状況の報告など
- ② テーマ季節便（年4回）：  
皆さんに投稿していただくテーマ
- ③ ①、②へのコメント、お返事その他  
会話パートナーに関することなら  
何でも！

こんな人が参加しています

- ♪ 会話パートナーのついでで申し込んだ人
- ♪ 和音のスタッフ
- ♪ 和音の会話パートナーMLの参加者
- ♪ 上記の方からのご紹介

[waon.kaiwapa@gmail.com](mailto:waon.kaiwapa@gmail.com) まで  
お問い合わせください！

皆さんの  
ご参加、投稿  
お待ちしております！

ML管理人一同

## IX 提言

**全国の地方自治体や失語症関連団体は連携して、失語症意思疎通支援者としての失語症会話パートナーの養成を早急に実施することを提言する。**

つどい開催に先立ち和音が実施した失語症会話パートナー養成講座修了者アンケートの結果(資料 2 参照)からは、多くの会話パートナーが多様な場所で活躍し、この活動の意義を見いだしていることがわかった。またもっと自分達の資質の向上を図りたいという意識の高さが感じられた。一方、連携に関して、他の地域での活動を知りたい、横のつながりや全国のネットワークがほしいというような意見があった。

これに対し、つどい参加者による終了後アンケート(VII)では、各地の活動を知ることができ有意義であったという意見が多かった。これは、今回のつどいの大きな成果の一つだと言える。さらにつどいの成果を持続させて会話パートナーの資質の向上を図り、失語症の意思疎通支援者として全国の会話パートナーが連携するためのメーリングリストの立ち上げを提案した。全国の会話パートナーが情報を共有することで、新たな課題の発見や活動の展開が期待される。

つどい終了後、参加した全国の団体のいくつかに対し、言語聴覚士の団体などから会話パートナーを養成したいという問い合わせがあったという情報が和音に寄せられた。このような各地の情報が集約できるようになったことは、つどいのもう一つの成果の表れである。同時に、一般の人だけでなく、養成する側の専門職にもその必要性の認識が広まっていることが実感される。

失語症は、意思の疎通が困難な障害であるということさえ一般には十分に認識されていない。その意思の疎通を支援する「失語症会話パートナー」という人たちが全国で活動している実態を、失語症当事者や医療福祉の関係者だけでなく、広く世の中に知ってもらう必要がある。会話や意思の疎通、それ自体は目に見えるものではなく、その支援の方法も一見して容易にわかるものではない。「失語症会話パートナー」は失語症の人の意思疎通を支援し、コミュニケーションの橋渡しをする人材として、具体的で目に見えやすい方策の一つである。コミュニケーション支援のいわば象徴的な存在であり、その存在や必要性を知ってもらうことが、失語症およびコミュニケーション支援の理解につながる。

すべての国民が同等に尊重され、必要な支援を受け、社会参加と選択の機会を確保されるような共生社会の実現という障害者総合支援法の基本理念に照らして考えると、失語症の人たちは失語症会話パートナーのような人材の支援を適切に受け、どのような社会資源をも活用でき、

さまざまな活動に参加することができるようになることが理想である。その実現への第一歩として、意思の疎通を支援する人材の育成は喫緊の課題である。各自治体や言語聴覚士の団体などが連携し、積極的に養成を開始することを提言したい。NPO 法人和音もこれまでに蓄積した養成の方法や活動の仕組みをブラッシュアップし、さらに普及活動に邁進したいと考えている。



## <資料> NPO 法人和音の失語症会話パートナー養成講座について

### 1. 失語症会話パートナー養成のあゆみ

和音はその前身を含め、活動を始めてから今年で 15 年目を迎える。その中心事業である失語症会話パートナーの養成を軸に、その歩みを振り返りたい。

発端は 1998 年にカナダのオーラ・ケーガンという言語病理学者が、「失語症者のためのサポート付き会話：会話パートナー養成の方法と資料」という論文をアメリカの「APHASIOLOGY(失語症学)」という学術専門誌に発表したことである。

東京近辺で地域リハビリテーションに従事していた言語聴覚士(ST)の勉強会である「地域 ST 連絡会」では、当時失語症者が社会の中で孤立している現状を打開するには、コミュニケーションの支援者が必要だということが議論されており、ケーガンの提唱する「会話パートナー養成」は画期的な方策と思われた。そこで翌年、数人の ST が故遠藤尚志 ST 率いる失語症海外旅行団に同行し、トロントにあるケーガンの施設と実際の会話パートナーの活動を見学して大変感銘を受けた。

それを地域 ST 連絡会で報告し、日本でも会話パートナー養成を始めようと呼びかけたところ、20 名の ST が結集し、1999 年に「失語症会話パートナー養成部会」が発足した。ケーガンの方法を参考に日本で実施するための方法を検討し、テキストを作成するなど、一年の準備を経て 2000 年 10 月に第 1 回「失語症会話パートナー養成講座」を開講した。失語症についての知識だけでなく、具体的なコミュニケーション方法を、ロールプレイを使って練習するのはケーガンが提唱したやり方であるが、ロールプレイの際に、ST がチューターとして小人数グループを指導するやり方は、この第 1 回養成講座の時に編み出された方法である。多くの ST が参画したメリットを活かしたこの指導方法は、その後展開した様々な失語症講座でも好評を博し、和音の講座の特徴として現在まで変わらず行われている。

この時点の養成講座は、7 か月をかけて 1 日講座を 4 回、実習(当事者との会話練習)を 5 回行っていた。実習は主に失語症友の会や失語症者の自主グループの協力を得て行っていた。毎回約 30 名の会話パートナーを養成し、多くの修了者がその後も活動を継続した。

2003 年からは、2 日間でほぼ同様のことを学ぶ医療・福祉・介護専門職向けの短期講座も開講した。

5 年間養成講座を実施した後、さらに活動を発展させ経済的・社会的な基盤を整えるために、NPO 法人化することを決定し、2005 年 4 月に NPO 法人言語障害者の社会参加を支援するパートナーの会和音として再出発した。その後、養成講座、専門職向け講座の他に新たに失語症者の家族向け講座、高齢者のコミュニケーションサポート講座も開講した。また、豊島区高松に事務所を構え、新宿の専門学校の一室を借りて、新宿ことばの相談室を開設した。失語症の人

が会話を楽しむ場として、事務所と新宿ことばの相談室で失語症サロンを開催している。法人化することにより責任をもって個人支援のコーディネートをすることが可能になったため、会話パートナーが個人宅に訪問する訪問事業も開始した。事務所では、電話相談・面接相談も受けている。

この間、社会の側にも少しずつではあるが、障害者の社会参加やそのための支援についての認識が進み、会話パートナーについても徐々に全国に知られるようになった。全国各地からの講演依頼も相次ぎ、年間5～10か所で講演を行っている。(和音ホームページの「和音の歩み」参照)

会話パートナー養成講座では、2006年度から講習の中で、失語症の方々に、失語症講師として会話実習に参加して頂くようになった。これは受講者にとって貴重な機会であると同時に、当事者にとっても、新たな社会的役割を得るという点でエンパワメントにつながる重要なことだと考えている。

その後ボランティア希望者が漸減してきたこと、和音の事業が拡大し、養成講座スタッフの人員確保が難しくなってきたことから見直しを行い、2010年度から2012年度までの3年間は15名定員とし、少人数のスタッフで運営する形態で実施した。少人数で運営できればSTの少ない地域でも養成講座を実施できるので、そのモデル構築の意味合いも含めての試行であった。この点では、4名のSTがいれば15名程度の会話パートナー養成ができることが確認できた。

2012年度終了時点で、ボランティア対象の養成講座、家族対象、専門職対象の各講座の内容が重複している部分が多いこと、各講座とも家族、専門職等の属性に関係なく受講希望があること、機を逸すると一年待たなければならないことなどを考慮し、より受講者のニーズに沿う形にするための見直しを行った。その結果、三講座を統合し基礎・実技・実習の3ステップに再編成し、失語症コミュニケーション支援講座として、年に2回開講することになった。基礎講座当日、家族は相談交流会にも参加できる。各ステップを分けて受講することもできるようにしたため、選択の自由度が増えた。3ステップすべてを修了した人には、失語症会話パートナー講座修了証を発行する。それにより、会話パートナーとしての自覚を持ち、活動を継続してもらうことを狙っている。現在の講座の概要を表に示す。

和音の養成講座は15年間で改良を重ねてきたが、講座で伝達する内容は基本的に変わっていない。一般の人にわかりやすい講座をめざし、「失語症者と対等な立場に立ち、スムーズにコミュニケーションが取れるように支援し、社会との懸け橋となる人材」を養成してきた。当初は他のSTから、一般の人が失語症者とコミュニケーションを取るのには難しい、と養成を疑問視する声もあった。しかしこの15年の実績からそのような声は少なくなり、最近ではSTの県士会が会話パートナーの養成を担うケースも出てきており、STの養成課程の教科書にも「失語症会話パートナー」という言葉が採用されるまでになっている。

しかし残念なことに公的なレベルでは、失語症会話パートナーはもちろん、失語症についてもまだまだ理解されていない。役所の窓口の対応や選挙の際に、無理解による不快な思いや不自由な思いをされた失語症の人の声も届いている。

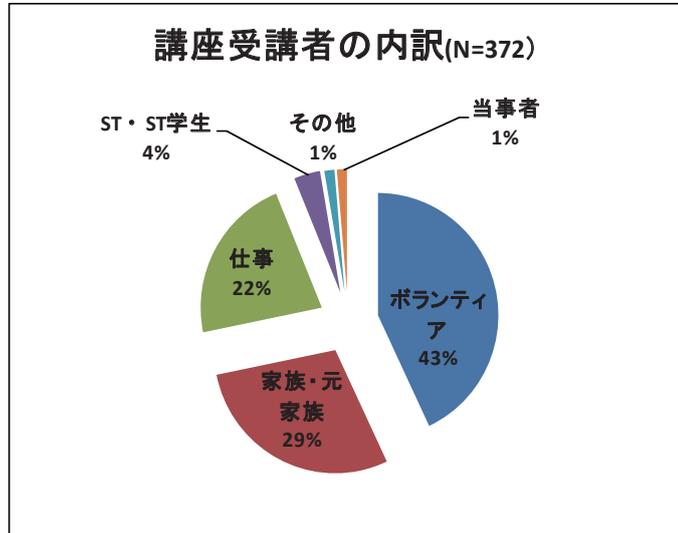
また、会話パートナー同士の横のつながりという点では、和音の場合は広域対象の養成であるため、顔を合わせる機会が少ないのが課題である。年に1～2回のフォローアップだけでなく、和音の特性を生かしたさらなる工夫が必要であると考えている。

### 失語症コミュニケーション支援講座の概要

A 基礎講座		B 実技講座	
1	失語症についての基礎知識(100分)	1	会話技術演習②(応用編)(120分)
1)	原因	1)	1日目の会話技術演習の復習(ポイントの確認)
	症状(4側面と数字・計算)と対応方法	2)	会話とは
	失語症のタイプ	3)	ポイントを書きながら会話を進める
2)	保たれる側面	4)	トータルコミュニケーション
	一緒に起こりやすい症状	2	失語症当事者との会話実習(150分)
	間違いやすい他の障害	1)	会話のポイント確認, 会話パートナーのモデル
3)	失語症の回復	2)	失語症の人との会話実習
4)	失語症のリハビリテーション	3)	会話の振り返り
5)	退院後の生活	3	全体のまとめ(5分)
	日常場面での困難	1)	講座全体をまとめて
6)	社会資源について	2)	失語症の人との豊かなコミュニケーションのために
2	失語症から起こる様々な問題(20分)	C 実習	
1)	当事者・家族の声	1	実習希望者向け実習ガイダンス(30分)
	障害が理解されにくい	1)	ボランティアの心得
2)	交流が少なく孤立しがち	2)	実習の方法
	自分に自信がもてない	3)	具体的打ち合わせ
	家族の悩み	2	現地実習(120分×5回)
3)	社会資源の不足	1)	活動の場(友の会、サロン他)での会話支援
	失語症会話パートナーとは		活動後感想シートの記入提出
	失語症会話パートナーの役割	2)	活動内容へのアドバイス
	コミュニケーションのバリアフリー	3)	修了証授与
3	会話技術演習①(基礎編)(160分)		
1)	会話の基本		
	ゆっくりはっきり		
2)	繰り返し・別の表現		
	先回りしないで待つ		
3)	漢字で要点を書く		
	選択肢を示す		
4)	身振りや表情		
	コミュニケーションを助ける道具		
5)	はい—いいえで答えられる質問		
6)	訂正しない・確認		

## 2. 失語症会話パートナー養成講座 修了者アンケート 結果

和音では、前述のように2000年より失語症会話パートナーの養成を開始し、330名(2013年度現在)を養成してきた。講座受講者の数は372名(中断者を含む)にのぼる。講座受講者の内訳は、右図の通り。ボランティアが43%、家族が29%、仕事で関わっている人が22%であった。



今回、全国会話パートナーのつどいに先立ち、修了生にアンケート調査を行った。修了者のうち宛先が確認できた300名にアンケートを送付し、83名(回収率28%)から回答を得た。

### ◇アンケート項目

- 問1. これまでに講座で学んだことを活かしましたか？
- ① 活かすことが出来た →問2へ
  - ② 活かせなかった →問3へ
- 問2. どこで活かしましたか？(複数回答可・カッコ内はどちらかに○)
- ① 失語症友の会や自主グループ(現在も・過去に)
  - ② 会話サロン(現在も・過去に)
  - ③ 個人宅訪問(現在も・過去に)
  - ④ 仕事で(現在も・過去に)
  - ⑤ 家族として/友人・知人として(現在も・過去に)
  - ⑥ その他( )
- 活動地域/団体名称( )
- 問3. 活かせなかった理由を教えてください。(複数回答可)
- ① 時間がない
  - ② 活動場所がない
  - ③ その他( )
- 問4. 会話パートナーの活動に対するご意見やご要望
- [ ]

◇アンケート結果

問1 <講座で学んだことを活かしたか>

活かしたという人が 72 名(87%)と多く、なんらかの形で実際に役に立ったと考えられる(図1)。

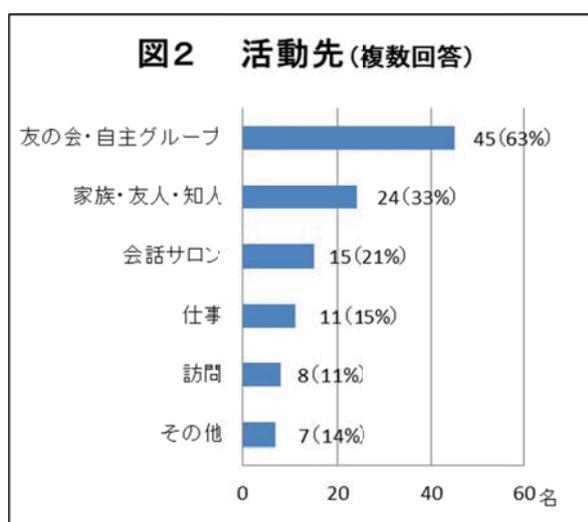
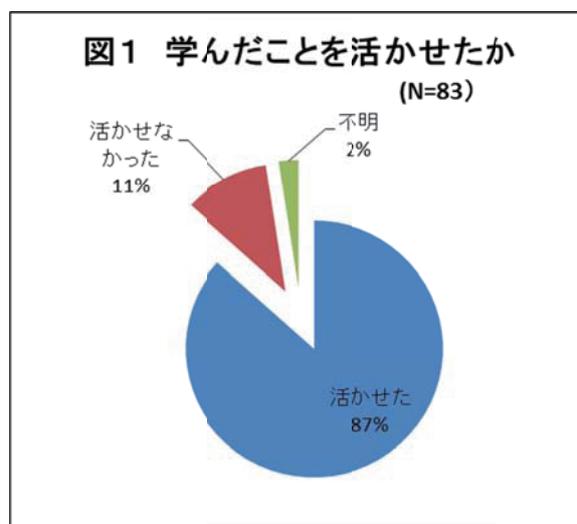
問2 <どこで活かしたか>

どこで活かしたのか活動先を尋ねると、「失語症友の会や自主グループ」(45 名)が最も多く、次いで「家族・友人・知人として」(24 名)「会話サロン」(15 名)の順であった(図2)。

72 名のうち 63%の人が失語症友の会や失語症の人が集う自主的なグループの中で活かしていた。和音が主催する会話を中心としたグループ活動の会話サロンを含め半数以上はこのようなグループを支える形で講座を活かし、活動していることがわかった。なお、これらのグループのいくつかは、講座の最後に行う実際の研修(実習)の場として、養成の最中から参加している場合もある。

家族や友人知人との会話の場面において、学んだことを活かしたという人は 33%であった。講座受講者の 29%が失語症の人の家族であることから、身内や知人が失語症になったことで、はじめてこの障害を知り、障害のことを理解し会話をしたいという動機で受講する人が多いことが推察される。仕事上に活かしたという人は15%であった。また、11%の人が訪問事業に関わっていた。主に和音がコーディネートして実施している訪問事業(パネルディスカッションの資料参照)に携わっている。

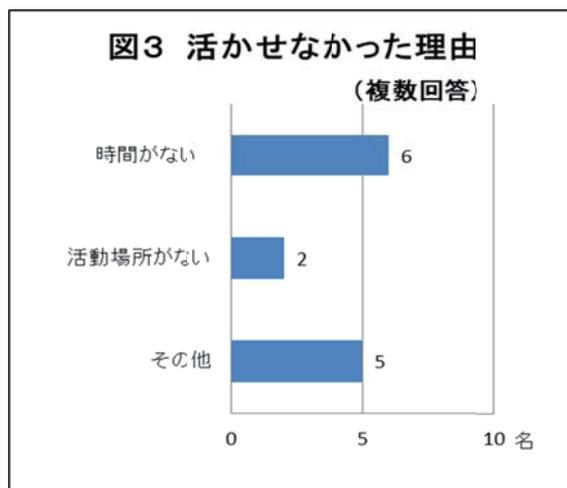
活動先に関しては、講座を活かしたという72名中42名は単独の活動場面で活かしていたが、30名は複数の活動場面で活かしたと答えた。その組み合わせは17種類に及び、友の会と会話サロンと訪問というように、3種類の活動を経験している人が9名、2種類の活動を経験している人が21名いた。訪問を除く、具体的な活動場所は関東の失語症友の会9か所、自主グループ16グループ、その他の福祉施設、介護施設が9施設となっている。



### 問3 <活かせなかった理由>

一方、講座を実際に活かせなかったと答えた9名にその理由を問うと、時間がないためが多く、活動場所が近隣に見つからない、転居してしまったので、活動していないという理由であった(図3)。

アンケートの回収率から考えると、回答を寄せてくれた人の多くは、なんらかの活動をした人や現在活動中の人である可能性が高い。



以下に自由記述に記された要望や意見を分類して掲げる。

#### 【活動の拡大や充実を望む】

- 会話パートナーが社会的にもっと取り上げられて活動しやすくなれば良い
- 和音が当事者さん、会話パートナーの集う場をいろいろな地域に作れないだろうかと思う。和音の求心力を高め、人を集められる組織として力強く発展することを願う。
- デイサービスに、40代・50代の失語症の方がいる。高齢者の中に入り、会話もできず、表情が暗くなっている。デイサービスでも活動できないか。
- 施設利用者へのケアに関わる人達への講座を、身近なところで受けられる機会がほしい。プロでも知識がない。地域に活動の場を作ってほしい。
- ちょっとした会話技術は、広く一般の方に知ってほしい。
- 当事者に寄り添って、その方の考えが広がる様なお付き合いができるボランティアもなくならないで欲しい。
- 患者さんに訪問会話パートナーを紹介したこともあり、活動の輪が広がっていくとありがたい。
- 新人の育成に於いて…敷居を高くしないで、まずは参加してもらい、性格的に合う人(前向き、明るい)を発掘できると嬉しい。
- 介護施設の職員さん等が受講の機会に多く恵まれることを願う。

#### 【会話パートナーとしての資質の向上】

- 小さなグループでの勉強会が頻回に、都内近郊の色々な場であると良い。
- 勉強会等があったらありがたい。まだまだわからないところがたくさんあるので。
- 時々しかお手伝いできない場合、その方の症状を把握することが難しく、その方が会話を楽しめていたのかどうか、とても気になる。ご本人からの感想を後で聞けるとよい。
- 月1回活動している。丁度よい
- タブレットがあればよかったと思う。

### 【連携の必要性】

- 横のつながりを持つ機会が少ない。
- 他の方達の活動内容を知りたいと思う。
- 会話パートナーのネットワークが広がり、また定着することを切に願っている。
- いま、会話パートナーとして失語症の人々と会話をしているパートナーが、どれだけ、どんな形にいるのかというような情報を、会話パートナーにも公開して欲しい。SNS やホームページでの情報の公開してほしい。
- 友の会にも参加したが、同様のボランティアがいなかったのが、少し辛かった。義父の接し方が少しわかって良かったが、言葉回復までには至らなかった。

### 【意義を感じる、啓発になった】

- 豊島の会に参加したが、会話パートナーとして入られた方が長期間にわたって支援をされ、その成果として互いに信頼関係を強く築いている様子にとっても感動した。現時点では、家族あるいは友人・知人として会話パートナーをしているだけだが、もう少し落ち着いたら、互いに支え合う場として仲間に入れてもらえたらと思う。
- 失語症と一言でいえないくらい、いろいろな方々がいるのがわかった。
- 外出困難な重度の失語症者に、歌、発語、計算問題、手紙等を 14 年間続けてきて、高齢（80 歳）の方でも進歩している。私にとってもやりがいのある活動。
- 母の脳梗塞による失語症に驚き、とまどったが、和音で様々なことを学び（特に実習で）、実際に役立ち、感謝している。
- 失語症の理解を社会に広めるために必要な活動だと認識している。
- 手話の講習先で失語症会話パートナーの講習のを知り、講習の機会を得て、視野が広がった。認知症との違いを学び、周囲の方の言動を見直し、理解が深まった。この支援がもっと広がる必要がある。講習の機会があれば、再び学びたいと思っている。
- 身内として母の失語症のケアをするむずかしさを感じる。この活動の意義を強く感じる。

### 【活かせなかった理由】

- 時間がとれるようになったら、また参加したい。
- 仕事が忙しく、会話パートナーのスキルアップの機会がありながら、受講できていない。
- 静岡県伊豆市に4年前に転居し、この地での活動をしたいのだが、車を持っていないためと、近くにグループがないため活動できなく、残念に思う。

## 第2回失語症会話パートナー全国のつどい実行委員会

委員長	田村洋子	会話パートナー部会
委員	安保直子	阿刀田英子
	石戸純子	泉マヤ
	小谷朋子	佐川京子
	木村逸子	佐々木恵子
	小林久子	事務局 新川縊子
	野副めぐみ	編集協力 石上志保
	安田容子	写真 酒井憲太郎

### 第2回全国失語症会話パートナーのつどい 報告集

2015年2月15日発行

編集・・・つどい実行委員会

発行・・・NPO法人

言語障害者の社会参加を支援するパートナーの会和音

〒171-0042 東京都豊島区高松 2-48-3 杏コート・W100号

電話・ファックス 03-3958-1970

<http://npowaon.jp>

